

和仏法律学校講義録

若槻, 禮次郎 / 金井, 延 / 松岡, 義正 / 杉本, 貞治郎 / 矢
作, 榮藏 / 山口, 弘一 / 富谷, 銈太郎

(出版者 / Publisher)

和佛法律學校

(巻 / Volume)

2-12

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

53

(発行年 / Year)

1900-07-25

和佛法律學校

講義錄

第貳部

第拾貳號

商法會社(自一六)法學士杉本貞治郎

商法手形(自八九)法學博士富谷銑太郎

破產法(自二八八)法學士松岡義正

經濟學總論(自一〇四)法學博士金井延

經濟學各論(自四一五)法學士矢作榮藏

國際私法(自一五三)山口弘一

現行租稅法論(自九七)法學士若槻禮次郎

090
1900
2-1-12

商法會社

法學士杉本貞治郎講述

第一章 總則

會社法ノ規定ヲ講スルニ先チ商事會社ノ起リ沿革ノ概略ヲ述ヘント欲ス商
事會社ニ幾多ノ種類アルコトハ既ニ諸君ノ了知スル所ナリ而シテ其種類ハ今
日ヨリ之ヲ觀レハ劃然トシテ區別アルカ如シト雖モ之ヲ其發達ノ沿革ヨリ觀
察スレハ實ニ模糊ノ感ナクシハ非ス抑モ商業ノ性質トシテ一種ノ伎倆ヲ要シ又
相當ノ資本ヲ要ス然ルニ伎倆ヲ有スル者必スシモ資本ヲ有セス又資本ヲ有スル
者必スシモ伎倆ヲ有セサルヲ以テ此ニ資本家ト企業者ト相團結スルノ必要ヲ生
シ遂ニ一種ノ組合ヲ組織スルニ至レリ即チ資本主ハ唯其資本ヲ給シテ自ラ營

業ヲ爲スコトナク企業者ハ資本主ノ資本ニ依リテ其營業ヲ爲セリ歐洲中世紀ニ於テ伊太利ノ諸市ニ行ハレタル「コンメンダー」ノ如キ是ナリ「コンメンダー」組合員ノ關係ハ恰モ消費寄託ノ如キ關係アリ唯異ナル所ハ資本主ハ利益ノ分配ヲ受クル代ハリニ其出資ノ限度内ニ於テハ損失モ亦之ヲ分擔セリ是レ今日ノ匿名組合合資會社等ノ原始ナリト云フ又或場合ニハ數人ノ勢力又ハ資本ヲ集合シテ共同事業ヲ企ツルコトアリ此種ノ團結ニ於テハ其組合員ハ皆其全財産ヲ以テ責任ヲ負ヒ各其組合部ヲ代表スル權限ヲ有スルナリ歐洲中世紀ニ於テ「コンパニヤ」ト稱セラレタル營業組合ノ如キ是ナリ現今ノ匿名合資會社ハ此種ノ組合ノ發達セルモノナルヘシ又「コンメンダー」ニ於テ行ハレタル資本主ノ有限責任ノ思想ハ遂ニ株式會社ノ起因ヲ爲セリ昔時伊太利ニ於テ租稅請負會社ナルモノアリ納稅者ニ代リテ政府ニ租稅ヲ納付シ而シテ自ラ納稅者ニ對シテ其租稅ヲ徵收スルヲ以テ業トシ政府ハ之ニ特權ヲ與ヘテ有限責任ノ組織ヲ認許シタリ是レ實ニ今日ニ於ケル株式會社ノ濫觴ナリ

新商法ハ合名合資株式ノ外更ニ株式合資ナル組織ヲ認メタリ是レ我舊商法ニ

ナキ所ニシテ歐洲ニ於テモ近時ニ至リテ發生シタルモノナリ其組織沿革等ニ付テハ後ニ述フル機會アルヘシ

會社ハ其性質民法上ノ組合ト酷似スルモノアリ現ニ西洋諸國ノ法語ニ於テハ會社ト組合トハ同語ナリ (societas, Gesellschaft) 獨リ其語ヲ一ニスルノミナラス獨逸法主義ニ從ヘハ會社中合名會社合資會社ハ法人ニ非ス故ニ其性質モ亦民法上ノ組合ト同シ唯會社ノ目的ハ商業ニ在ルカ爲メニ多少特別ノ規定ヲ要スト云フノミ然ルニ我新商法ニ於テハ會社ハ總テ法人ナリト規定セリ第四四條是ヲ以テ會社ト組合トハ其性質全ク相異ナレリ

會社トハ商業ヲ營ム爲メニ設立シタル團體ナリ是レ商法第四十二條ノ規定スル所ナリ此團體即チ社團ハ法人ナリ(第四四條故ニ會社ノ營業ハ社團法人ノ營業ニシテ社團ヲ組成スル社員株主ノ營業ニ非スト云フハ法理ノ正鵠ヲ得タルモノナリ然レトモ此營業法人ヲ設立スル各社員ノ目的ヨリ觀ルトキハ總社員協同シテ商業ヲ營ムニ在リ設立者ノ目的ヨリ觀ルトキハ組合ナリトスルモ法人ナリトスルモ更ニ異ナル所ナシ

我商法上會社カ組合ト異ナル所ハ實ニ法人ト非法法人トノ區別ニ在リ獨逸商法
ノ如キハ商事會社ノ法人ナルヲ否テ明言セズシテ之ヲ學者ノ論議ニ一任セ
リ而シテ學者ノ大多數ハ商事會社中合名會社合資會社ハ法人ニ非スト論スル
ナリ我舊商法ニ於テハ規定頗ル曖昧ナリシカ故ニ學者ノ解釋亦一定セザリシ
カ新商法ハ遂ニ之ヲ法人ナリト明言セリ其意蓋シ商事會社ニ於テ社團ニ獨
立ノ商號ヲ有スルコトヲ認メ獨立シテ權利ヲ有シ義務ヲ負フコトヲ許シ隨テ
訴訟法上獨立ニ訴ヲ起シ又訴ヲ受クル能力ヲ認ムルノ必要アリテ其結果殆ト
獨立ノ人格者ト同様ナルヲ以テ之ヲ法人ト斷定シテ無益ノ論爭ヲ鎮制セント
欲スルニ在ルナリ從來學者カ法文外ニ於テ如何ナル社團ハ法人ニシテ如何ナ
ル社團ハ法人ニ非スト極力論爭セルハ學者ノ研究トシテ趣味アルヘシト雖モ
實際ニ於テハ殆ト無用ノ論議ナリ縱令之ヲ法人ニ非ストスルモ商事會社ニハ
多少ノ財産上ノ獨立ヲ認メサルヘカラス又之ヲ法人ナリトスルモ合名會社合資
會社等ニ於テハ其社員カ會社ノ營業上ノ權利義務ニ關シテ一定ノ責任ヲ有ス
ルコトヲ免レス故ニ之ヲ法人ナリトスルモ法人ニ非ストスルモ各場合ニ關シ

テ特別ノ規定ヲ設ケサルヘカラス已ニ各場合ニ於テ特別ノ規定ヲ設ケテ實際
ノ不便ヲ救フコトヲ得ルトスレハ必スシモ之ヲ法人ナリ非法法人ナリト斷言セ
サルモ商事會社設立者ノ目的ヲ達スルニ於テ差別ナキナリ彼ノブリント氏ノ
一派ハ法人ハ擬制人ナリト云フ說ヲ駁シテ法人ノ自然的存在ヲ主張スルモ現
在ノ立法上些ノ影響ナキナリ國家カ其意思表示法令ヲ以テ或者ノ人格ヲ奪ヒ
又或者ニ人格ヲ與フルコトヲ得ルハ今世ノ公法法理ノ是認スル所ナレハナリ
又ラバント氏ノ說明ニ依レハ會社ノ義務ニ關シテ社員カ第三者ニ責任ヲ負フ
モノハ非法法人社團ナリト云フモ會社ノ債務ノ爲メニ社員カ保證債務ヲ負ヒシ
モノト見ルトキハ其社團ノ獨立ノ人格タルヲ妨ケサルナリ然ラハ則テ社員カ
第三者ニ對スル責任ノ有無ヲ以テ社團ノ法人ト否トヲ決セントスルハ疑ヲ挾
マサルヲ得ス要スルニ新ニ法律ヲ制定スルニ當リテハ會社ヲ法人ナリト規定
スルモ法人ニ非スト規定スルモ又全ク此問題ヲ拋棄シテ法文ニ規定セサルモ
實際ニ於テハ妨ケナキナリ
會社ハ法人ナリ故ニ其住所ナカルヘカラス民法第二十一條ニ依レハ各人ノ生

活ノ本據ヲ以テ住所トス然レトモ法人ハ無形人ナルヲ以テ其生活ノ本據ハ何處ナルヤ疑ナキ能ハス故ニ民法第五十條ニ於テ法人ノ住所ハ主タル事務ノ所在地ニ在リト定メタリ民法法人ノ主タル事務所ハ會社ノ營業所ニ相當ス故ニ會社ノ住所ハ本店ノ所在地ニ在ルコトヲ規定セリ(第四四條第二項)

會社ノ組織ニ四種アリ合名會社合資會社株式會社株式合資會社はナリ(第四三條株式合資會社ハ新商法ノ創設ニ係ルモノナリ會社ハ此四種類外ノ組織ヲ以テ設立スルコトヲ得サルナリ)

會社ノ成立ハ其本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス蓋シ會社ノ法人トシテ成立スルハ登記以前ニ在リ合名會社合資會社ニ在リテハ定款ノ作成株式會社ニ在リテハ株式總數ノ引受(第一二三條若クハ創業總會ノ終結第一三九條ニ在リト雖モ之ヲ以テ直チニ第三者ニ對抗セシムルハ第三者ノ不利ナルヲ以テ設立ノ登記ヲ爲シ第三者ニ會社關係ヲ公示スルニ非サレハ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ許ササルナリ)

會社ノ成立ハ登記以前ニ在ルヲ以テ登記前ト雖モ會社トシテ行爲ヲ爲スコト

ヲ得ヘシ唯第三者ニ對シテハ會社ノ行爲トシテ對抗スルコトヲ得サルノミ然レトモ第三者ニ對シテ對抗スルコトヲ得タル間ハ會社ノ成立ハ完全ナリト謂フコト能ハス此ノ如キ曖昧ナル資格ヲ以テ種種ノ行爲ヲ爲ストキハ必ス幾多ノ紛雜ナル法律關係ヲ生スル虞アルノミナラス立法者ハ此不完全ナル生活期間ハ成ルヘク之ヲ短縮センコトヲ希望スルカ故ニ登記前ニハ開業ノ準備ニモ著手スルコトヲ許サス(第四六條又會社カ已ニ登記ヲ爲シタル後ハ直チニ開業ヲ爲スコトヲ得ヘキ地位ニ在ルモノナリ而シテ會社ハ商業ヲ營ムカ爲メニノミ成立スル法人ナルヲ以テ登記後開業セスシテ空シク長月日ヲ經過スルカ如キコトハ實際之ナカルヘシ若シ之アリトスレハ多クハ内部ニ忌ムヘキ關係アルカ爲メナルヘキヲ以テ法律ハ登記後六箇月ヲ經テ開業セサル會社ニ對シテ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ解散ヲ命スルコトヲ得ト規定セリ然レトモ六箇月ナル期間ハ諸種ノ會社ノ爲メニ必ス毎ニ相當ナル期間ナリト謂フコト能ハサルカ故ニ裁判所ハ場合ニ依リ解散ヲ命セサルコトヲ得又當事者ハ正當ノ理由ニ因リテ此期間ノ伸長ヲ請求スルコトヲ得ルナリ

又會社ノ行爲ニシテ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其解散ヲ命スルコトヲ得第四八條是レ舊商法第六十七條ノ規定ニ該當スルモノナリ舊商法第六十七條第二項ニ曰ク會社ノ營業カ公安又ハ風俗ヲ害スヘキトキハ裁判所ハ檢事ノ申立ニ因リ又ハ職權ニ依リ其命令ヲ以テ之ヲ解散セシムルコトヲ得ト即チ舊商法ニ於テ營業トアリシヲ新商法ニハ行爲ト改メタルナリ蓋シ營業トシテ公安風俗ヲ害スル場合ハ即チ會社ノ行爲ノ公安風俗ヲ害スル場合ナルコト明カナリ且ツ營業自體カ公安風俗ヲ害スル場合ハ事實極メテ稀ナルヘク實際ハ大抵營業ノ手段タルヘキ或行爲カ公安風俗ヲ害スル場合ナルヘキヲ以テ新商法ハ事ロ廣キニ從ヘルナリ

第二章 合名會社

合名會社ノ特色ハ其各社員カ全財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ負擔スルニ在リ社員カ全財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ負擔スルハ恰モ組合員カ組合ノ義務ニ對シテ負フ所ノ責任ニ似タリ故ニ會社ハ法人ナルヤ否ヤヲ明示セサル商法ノ解釋ニ關

シテ會社ハ組合ナリト主張スル學說ハ其論據ヲ多ク合名會社ノ法律關係ニ取ルナリ

會社ヲ法人ナリトスルモ法人ニ非ストスルモ商法ノ規定スル事項ニハ影響スル所甚タ少シト雖モ已ニ法人ナリト明言シタル以上ハ又多少ノ更正ヲ免レサルナリ例ヘハ

一 會社カ獨立ノ人格者ナルカ故ニ舊商法第六章第一節第三款ニ社員間ノ權利義務ト題シ又第四款ニ第三者ニ對スル社員ノ權利義務ト題スルカ如キハ妥當ナラス舊商法ノ此題目ハ實ニ組合說ノ一論據ナリシナリ組合ナラハ會社ナル人格者ナキヲ以テ法律關係ハ會社員相互間及ヒ社員ト第三者トノ間ノ關係ニ外ナラス然ルニ會社ヲ以テ人格者ト爲シタル以上ハ社員相互間ノ關係ト謂ハンヨリ寧ロ社員ト會社トノ關係ト謂ハサルヘカラス會社トノ關係ヲ離レテ直接ニ社員相互間ノ關係ナク又社員ト第三者トノ關係ナシ社員相互間ニ又ハ社員ト第三者トノ間ニ種種ノ關係ヲ起スハ社員ト會社トノ法律關係ト會社ト第三者トノ法律關係ノ結果ニ過キサルナリ故ニ新商法ニ

於テハ此題目ヲ改メテ會社ノ内部ノ關係會社ノ外部ノ關係ト稱セルナリ
 二 會社カ人格者ナルカ故ニ營業ハ會社ノ營業ニシテ社員ノ營業ニ非ス故
 ニ會社ノ設立ニ因リテ會社ナル商人生スルモ其社員ハ之カ爲メニ商人トナ
 ラス組合主義ヲ採ルトキハ各社員カ共同シテ商業ヲ爲スモノナルヲ以テ各
 社員カ商人ナリ

三 會社ハ商人ナルヲ以テ商法ノ商人ニ關スル規定ニ從ヒテ行動スヘキハ勿
 論ナリ之ニ反シテ組合說ニ從フトキハ會社ハ商人ニ非ス故ニ各社員カ商人
 トシテ商法ノ適用ヲ受ケサルヘカラス斯クテハ甚タ不便ナルカ故ニ法律ハ
 之カ爲メニ特ニ規定ヲ設ケテ會社ニ商業又ハ商人ニ關スル規定ヲ準用セシ
 ムルナリ(舊商法第一七條、獨逸現行商法第五條、同新商法第六條)

四 會社カ組合ナリトセハ其組合員カ全財産ヲ以テ會社義務ヲ負フハ明言
 ヲ要セス然レドモ之ヲ法人ナリトセハ社員ニ此義務ヲ負ハシムルニハ明カ
 ニ之ヲ規定セサルヘカラス(第六三條)

五 若シ組合主義ヲ採ラハ商法第一條ノ結果トシテ民法ノ組合ニ關スル規

定ノ適用アルコトハ當然ニシテ明言ヲ要セス然レドモ法人說ヲ採ルニ於テ
 ハ民法ノ組合ニ關スル規定ヲ準用セントセハ明カニ之ヲ規定セサルヘカテ
 ス是レ第五十四條ニ於テ會社ノ内部ノ關係ニ付テハ定款又ハ本法ニ別段ノ
 定ナキトキハ組合ニ關スル民法ノ規定ヲ準用スト規定セル所以ナリ

第一節 設立

合名會社ヲ設立スルニハ第一定款ヲ作成セサルヘカラス第二設立ノ登記ヲ爲
 ササルヘカラス

第一 定款ノ作成

合名會社ヲ設立スルニハ先ツ定款ヲ作ラサルヘカラス(第四九條)會社ヲ組合ナ
 リトセハ定款ハ組合契約ナリト雖モ已ニ會社ヲ法人ナリトセハ定款ハ契約ニ
 非スシテ會社ノ法則ナリ

定款ハ書面ナルコトヲ要スルハ其字義ノ示ス所ニ據リテ明カナリ凡ソ會社ノ
 行動ニ關シ必要ナル事項ハ之ヲ定款ニ規定スル必要アリト雖モ法律ハ特ニ或

事項ヲ指定シテ必ス定款ニ記セシムルナリ舊商法ニハ定款記載事項ノ規定ナカリシト雖モ重要ナル事項ハ法律ヲ以テ之カ記載ヲ命スルコト今日ノ社會ニ於テハ必要ナルヘシ第五十條ノ規定ニ依リ定款ニ記載セサルヘカラサル事項ハ左ノ如シ

一 目的

二 商號

三 社員ノ氏名住所

四 本店及ヒ支店ノ所在地

五 社員ノ出資ノ重額及ヒ價格又ハ評價ノ標準

凡ソ此等ノ事項ハ常ニ定款ニ於テ一定シアルコト極メテ必要ナリ社員ノ氏名住所ノ如キ盡ク之ヲ定款ニ記載スルハ甚タ繁雜ニシテ又甚タ必要ナラサルカ如シト雖モ合名會社ニ在リテハ社員ノ數極メテ少數ナルモノナルヲ以テ其氏名住所ヲ記載セシムルモ甚シク困難ヲ感セサルヘシ株式會社ノ如キハ會社ノ信用ハ會社ノ財産ニ在ルヲ以テ株主ノ氏名住所ヲ知ル必要ナト雖モ合名會

社ノ如キ社員ノ信用カ會社ノ第三者ニ對スル信用ノ基礎ニシテ社員ノ異動カ會社ノ信用ニ關スルコト極メテ大ナルモノナリ故ニ之ヲ定款ニ記載セシムルナリ又社員ノ住所本店支店ノ所在地ノ如キ町名番地モ之ヲ記載スルコトヲ要スルヤ若シ之ヲ記載スルコトヲ要ストスレハ東京ノ如キ大都會ニ在リテ住民ノ住居モ會社ノ營業所モ時時變更セラルルニ其都度必ス一定款ヲ變更セサルヘカラストスレハ其不便ハ容易ナラサルナリ而シテ又町名番地マテモ定款ニ記載スルハ必スシモ必要アリト爲サス故ニ法律ノ精神ハ市町村名位ニ止マルナランカ

此ニ疑問アリ第五十條ノ規定ニ從ヘハ社員ノ氏名住所モ定款記載事項ナリ然ラハ社員カ其氏名住所ヲ變更セントスルトキハ先ツ定款ヲ變更セサルヘカラサルカ已ニ定款事項ナリトスレハ然リト答ヘサルヘカラサルカ如シ然レトモ社員カ其氏名ヲ變更シ其住所ヲ移轉スルハ自己ノ便宜ニ隨フモノニシテ會社事業ト毫モ關係スル所ナシ故ニ之ヲ定款ニ記載スルモ氏名ノ變更住居ノ移轉ニ關スル自由ヲ束縛セタルモノト見ルコト能ハス法律ノ精神モ

亦必ス此ニ在ラサルナリ法律カ之ヲ記載スヘシト云フハ社員ノ氏名住所ハ
常ニ定款ニ於テ之ヲ見ルコトヲ得ヘカラシムル精神ナリ則チ單ニ事實ノ記
載ニ止マリテ事實ヲ確定スル規定ニ非サルナリ故ニ之ヲ變更スルハ定款變
更ノ手續ヲ待ツヲ要セス社員カ任意ニ其氏名住所ヲ變更シタルトキハ會社
ハ此事實ニ從ヒテ定款ノ更正ヲ爲ササルヘカラサルノミ此ニ於テ始メテ定款
變更ノ手續ヲ要スルナリ而シテ此定款變更ハ事實ノ變更ニ基ク當然ノ變更
ナルヲ以テ社員ハ之ニ不同意ヲ示スルコトナカルヘシ然レトモ定款ノ條項
ニ變更ヲ加フルモノナルヲ以テ必ス第五十八條ノ手續ヲ經サルヘカラス此
ニ於テ若シ社員ニシテ同意ヲ與ヘサル者アル場合ニハ定款ノ更正ヲ爲スコ
トヲ得ス隨テ事實ニ相違シタル記載ヲ存置セサルヘカラサルニ至ルナリ是
レ舊タ不便ナリト雖モ定款ノ變更ヲ尊重セシムル第五十八條ノ規定ノ結果
トシテ止ムヲ得サルナリ予ハ此ノ如キ事實ノ記載ニ止マル條項ハ業務執行
社員ニ於テ定款ノ更正ヲ爲スコトヲ得ル規定アラントラ望ムナリ
會社ハ定款ノ作成ニ因リテ成立ス唯設立ノ登記ヲ爲ササル間ハ其設立ヲ以テ

第三者ニ對抗スルコトヲ得サルノミ
第三者ハ會社ニ對シテ其設立ヲ主張スル
コトヲ得ルナリ

第二 設立ノ登記

會社ハ定款ノ作成ニ因リテ成立スルモ登記公告ヲ終ハラサル間ハ設立ヲ以テ
第三者ニ對抗スルコトヲ得ス(第二條)

會社ハ定款ノ作成アリタル日ヨリ二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ

設立ノ登記ヲ爲ササルヘカラス第五十一條ニ依リ登記スヘキ事項ハ左ノ如シ

一 目的、商號、社員ノ氏名、住所

二 本店及ヒ支店

三 設立ノ年月日

四 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其時期又ハ事由

五 社員ノ出資ノ種類及ヒ財産ヲ目的トスル出資ノ價格

六 會社ヲ代表スヘキ社員ヲ定メタルトキハ其氏名

凡ソ此等ノ事項ハ會社ト關係アル第三者ノ利益ノ爲メニ公示セシムル必要ア

ルモノナリ定款事項中ニハ本店及ヒ支店ノ所在地トアルニ登記事項ニハ之ニ反シテ單ニ本店及ヒ支店ト云フハ如何ナル意味ナルヤ或ハ本店及ヒ支店ト云フハ其營業所ヲ明示セシムル趣旨ナルヲ以テ其所在地ノ町名番地マヲ詳記ヒシムルコトヲ要シ定款事項ニ在リテハ單ニ何市何町又ハ何村ト云フカ如ク其所在地名ヲ示スノミニテ足ル精神ナリト言フ者アリ或ハ然ラシカ又定款事項ニハ社員ノ出資ノ種類及ヒ價格又ハ評價ノ標準トアリシニ登記事項ニ在リテハ出資ノ價格ハ單ニ財產ヲ目的トスル出資ノ價格ノミヲ規定セタルハ是レ財產以外ノ出資例ヘハ勞務ノ出資ノ如キハ定款ニ在リテハ特ニ之ヲ規定スル必要アリト雖モ第三者ノ爲メニスル登記事項トシテハ甚タ必要ナリトセザルヲ以テナリ又設立ノ年月日存立時期又ハ解散ノ事由及ヒ代表社員等ハ之ヲ定款事項トシテ規定スルコトヲ得サルモノアリ又定款ニ規定スル必要ナキモノアリト雖モ第三者ノ爲メニハ之ヲ公示セシムルコト便利ニシテ又之ヲ登記セシムルモ會社ニ取リテ不利ナルコトナキヲ以テ登記事項ト爲セルナリ

右ノ規定ハ會社設立ノ場合ノ登記ニ關スル規定ナリ設立後支店ヲ設置シタル

ナリ第四五四條、第四八四條、第四九七條、第五二三條

以上ノ説明ニ依リ成立ニ關スル形式事項ニ付キ其梗概ヲ述ヘ了レリ以下手形カ適法ニ成立シタルトキハ手形其モノニ因リテ振出人ハ如何ナル義務ヲ負フヤノ問ニ付キ一言スヘシ

適法ニ成立セタル爲替手形ノ振出人ハ手形法則上左ノ義務ヲ負フ

第一 擔保ノ義務 所謂擔保ノ義務ハ之ヲ區別シテ二箇ノ場合ニ付キ之ヲ述フヘシ

(イ) 満期日前ニ手形支拂人ヲシテ支拂ノ引受ヲ爲サシムルコトヲ擔保スルコト(第四六五條)

(ロ) 支拂人ノ引受ハ有效ナルコトヲ擔保ス、換言スレハ支拂人ノ引受ハ確實ニシテ満期日ニハ手形金額ハ支拂ハルヘキモノナルコトヲ擔保スルコト(第四八〇條)

右ノ義務ハ爲替手形ノ振出人カ手形上ニ之ヲ明示セスト雖モ其所持人ニ對シテ支拂人ニ支拂ハシムルコトヲ記載シタル手形ヲ交付スル以上ハ支拂人ハ初

ヨリ支拂ノ義務ヲ負フ者ニ非ナルカ故ニ之ヲシテ支拂ヲ爲スヘキ意思ヲ表示セシメ且ツ其者ハ支拂ヲ爲スニ十分實力ヲ有スルコトヲ支拂ノ委託ヲ爲ス裏面ニ約スルモノト謂フヘシ

第二 償還ノ義務(第四八六條) 即チ爲替手形ニ記載セル金額ハ満期日ニ其記載ノ場所ニ於テ支拂ハルヘキコトヲ擔保ス若シ支拂人カ支拂ヲ爲ササルトキハ手形ニ記載セル金額ハ勿論其費用ヲモ併セテ負擔スヘキモノナリ

以上之ヲ概括スレハ爲替手形ノ振出人ハ所持人ニ對シ條件附ノ義務ヲ負フ支拂人カ引受ヲ爲ササルトキハ擔保ヲ供セサルヘカラス又満期日ニ支拂ヲ爲ササルトキハ其賠償ノ責ニ任スルモノトス

右振出人ノ義務ハ管ニ手形ノ受取人ニ對シテ有スルノミナラス各所持人ニ對シ而モ同一ノ限度ニ於テ其義務ヲ履行スル責ニ任スヘキモノナリ其理由ハ既に總論ニ於テ説明シタル如ク手形上ノ義務ハ所持人ニ對シ直接ニ約シタルモノト謂フヘケレハナリ

第二節 裏書

第一 裏書ノ性質

總論ニ於テ論シタル如ク手形行爲ノ主タル目的ハ手形ニ依リテ行ハルヘキ金錢的價値ノ實行ヲ期スルニ在リ而シテ手形行爲力顯著ナル效用ヲ爲スニハ有價證券トシテ容易ニ流通スルニ由ル所謂裏書ナル法律行爲ハ手形ノ流通ヲシテ容易ナラシムルカ爲メ發見實用セラレタルモノニシテ第十七世紀ニ佛國人ノ使用シ始メタルコトハ既に陳述シタル所ノ如シ

抑モ裏書ハ原爲替手形ノ成立ヲ俟テテ有效ニ爲シ得ヘク即チ原手形ニ附帶シテノミ成立スルコトヲ得ルモノナルカ故ニ若シ裏書ヲ爲シタル原手形力其法律規定ニ違背シ無効ナルトキハ裏書モ亦其效力ヲ生スルコトヲ得ス是レ前ニ手形ハ嚴格ナル形式ニ依リ成立スルモノナルコトヲ説明シタル際既に述ヘタル所ノ如シ裏書ハ手形ニ附帶シテ成立スルモノナルモ其振出ト同シク單獨行爲ナリ故ニ裏書人カ其裏書ヲ爲シタルトキハ復タ被裏書人ノ意思表示ヲ必要

トセ換言スレハ手形ノ所持人カ適法ナル裏書ヲ爲シタル場合ニ於テ其手形カ善意ノ第三者ノ占有ニ移リタルトキハ其者ハ裏書人ノ意思如何オリシヤヲ問フニ及ハス完全ナル權利ヲ取得ス(第四四一條參照)而シテ裏書ハ裏書トシテ獨立シ債務關係ヲ生セシムルコトハ他ノ手形行爲ニ同シ但シ原手形ニ附帶シ成立スヘキ點ニ於テ振出ト差異アルヲ見ルヘシ

裏書ニ依ル手形ノ流通ハ手形ノ固有性質ニシテ特ニ指圖式タル記載ヲ待タス換言スレハ手形カ流通證券タルコトハ當事者ノ意思ニ因ルニ非ス苟モ法律ノ規定ニ依リ形式ヲ具備シタル爲替手形ハ單純ナル記名式ナルモノト雖モ裏書ニ依リ流通スヘキモノナリ(第四五條)故ニ爲替手形ニハ指圖式ノ記載アルヲ必要トセス隨テ振出人ハ裏書ニ依リ流通シ得ルモノナルコトヲ明記スルト之カ記載ヲ略スルトヲ選擇シテ可ナリ但シ實際指圖式ニ作ルコトハ普通ナルカ如シ

爲替手形ハ其性質上流通證券タルコト右ノ如クナルモ其振出人カ特ニ反對ノ意思ヲ表示シ之ヲ其手形ニ記載シタル場合裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルト

キニ於テハ其手形ニ限り流通證券タル效力ヲ有セス而シテ所謂裏書禁止附ノ手形ヲ認ムル理由ハ手形ヲ流通セシムルト否トハ之ヲ作成スル者ノ意思ニ一任スヘキモノニシテ強テ其意思ニ反シ其者ノ不便宜タラシムヘカラサルニ在リ其振出ニ因リ擔保及ヒ償還ノ義務ヲ負擔スルコトハ單ニ其受取人ニ對スルノミニ非ス其後ノ各所持人ニ對シテモ亦同一ナルカ故ニ若シ其振出シタル爲替手形カ數人間ニ轉讓シタル場合ニ於テ若シ不拂ト爲リシトキハ其金額ニ對スル償還請求ヲ受クヘキコトハ勿論不拂ニ因リ生シタル費用ヲモ併セテ辨濟セサルヘカラス(償還請求ノ説明參照)且ツ之ニ因リ將來振出人ノ信用ヲ害スル如キ結果ヲ生スル虞ナキヲ保セサルナリ故ニ流通證券タラサラシメタル爲替手形ヲ振出スコトヲ得セシムルノ規定ハ實際上振出人ノ利益ヲ保護スルニ付キ缺クヘカラサルモノト謂フヘシ而シテ爲替手形カ流通證券タル效力ヲ失フニハ振出人ニ於テ其裏書ヲ禁スル旨ヲ記載スルコトヲ要ス(第四五條)但書裏書禁止附ノ手形ハ右ニ述ヘタル如ク流通證券タラサルコト明カナリト雖モ此手形ニ因リテ成立シタル權利ハ其受取人ノミ之ヲ行フコトヲ要スト謂フニ非

所持人自ラ其債權ヲ行ハサルトキハ他人ニ其債權ヲ譲渡スコトヲ得但シ其譲渡ハ裏書ノ效力ヲ生セスシテ債權譲渡ニ關スル一般ノ效力ヲ生スルニ過キス裏書ト譲渡トノ差異ハ後ニ述ヘン

裏書ニハ之ヲ爲ス人其時期及ヒ度數ニ付キ法律上何等ノ制限ナキヲ以テ各爲替手形ノ所持人ハ爲替手形債權ノ存スル間ハ何人ニモ隨意ニ裏書ヲ爲スコトヲ得蓋シ手形ノ被裏書人ト爲ル者ハ手形ニ關係ヲ有セサル者ヲ通例ナリトスルモ之ニ關係スル者ト雖モ亦被裏書人タルヲ妨ケス例ヘハ支拂人ニシテ引受ヲ爲ササル者ハ勿論手形上何等ノ關係ヲ有セサル者ナルカ故ニ被裏書人タルヘキコト毫モ疑ナシト雖モ其引受ヲ爲シタル者モ亦被裏書人タルニ妨ケナキカ如シ其他振出人裏書人ノ如キ就レモ被裏書人タルコトヲ得第四五六條)又其裏書ハ其債權ノ存スル限リハ流通證券タル性質ヲ失ヒタルトキ即チ手形タル效用ヲ失ヒタル時期ノ後ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ例ヘハ満期後拒絕證書作成ノ時期ヲ經過シタル後ト雖モ裏書ヲ爲スコトヲ得ルカ如シ但シ此場合ニ於テハ後ニ説明スル如ク效力ニ付キ著シキ差異アルヲ見ルヘシ

以上ハ裏書ノ性質ニ關スル説明ナリ以下其形式ヲ論セントスルニ先チ裏書ノ效力ノ要概ヲ示スヘシ即チ左ノ如シ

第一 爲替手形ノ裏書ハ裏書譲受人被裏書人ニ手形上ノ債權ヲ移轉シ又ハ其債權ノ實行ヲ許スモノナリ

第二 爲替手形ノ裏書ハ手形ノ信用ヲ鞏固ナラシム換言スレハ裏書譲渡人ハ其債權ヲ譲渡スルト同時ニ自己ヲ其償還義務者タル地位ニ置キ被裏書人ニ對シ直接ニ此義務ヲ負擔スルカ故ニ手形債權ハ一層確實ナルニ至ル

右二點ニ付キ尙ホ簡單ノ説明ヲ爲スヘシ裏書ハ爲替手形ニ於ケル債權ヲ移轉スル效力ヲ生シ裏書譲渡人カ有スル債權ハ裏書譲受人ノモノト爲ルモ其被裏書人ノ取得スル債權ハ手形ノ規定上獨立ナルモノト看做サルルカ故ニ所謂裏書譲渡ナルモノハ一般債權ノ移轉ト同一視スヘキモノニ非ス其差異ハ後ニ説明ス

裏書ハ手形債權ヲ以テ其移轉スル場合ニ於テノミ之ヲ爲スモノニ非ス其債權ヲ實行セシムルコトヲ以テ其目的トスルコトアリ例ヘハ手形金額ノ取立ヲ他

人ニ委任シ又ハ債務ノ擔保ノ爲メ裏書スル場合ノ如シ所謂代理裏書又ハ擔保裏書ナルモノ是ナリ

譲渡ノ裏書ハ普通債權譲渡ノ場合ノ如ク債權者カ其他位ヲ脱スルノミナラス裏書ノ瞬間ニ於テ裏書人ハ自己ヲ債務者タル地位即チ條件附債務者支拂人カ支拂ヲ爲ササルトキハ償還義務者タル地位ニ置クモノナリ而シテ其義務タル各所持人ニ對シ獨立ナルカ故ニ手形不拂ノ場合ニ於テハ所持人ハ自己ノ選擇ニ從ヒ其振出人其他ノ前者ニ對シ償還請求ヲ爲スコトヲ得ルノミナラス又同時ニ若クハ時ヲ異ニシ之ニ對シテ其請求ヲ爲スコトヲ得

茲ニ一ノ注意スヘキモノアリ償還義務ト普通ノ保證義務トヲ混同セサルコト是ナリ蓋シ振出人其他裏書譲受人ノ償還義務ハ支拂人カ満期日ニ支拂ヲ爲ササルトキハ直チニ發生スルモノニシテ支拂人カ満期日ニ支拂ヲ爲ス資力ナキコトヲ要セサルナリ故ニ支拂人ハ満期日ニ於テ十分ノ資力ヲ有シ支拂ヲ拒ミタリトスルモ振出人其他ノ前者ハ所持人ニ對シ支拂人ニ資力アルコトヲ理由トシテ償還ヲ拒ムコトヲ得ス之ニ反シテ保證ノ義務ハ別段ノ約束ナキトキハ

主タル債務者ノ無資力ナル場合ニ非サレハ保證人ヲシテ債務履行ノ責任ヲ負ハシムルコトナシ

次ニ裏書譲渡ト普通ノ債權譲渡トハ如何ナル點ニ於テ差異アルヤヲ述ヘン
第一 民法上ノ債權譲渡カ完全ノ效力ヲ有スルニハ或相當ノ手續ヲ要スルコト例ヘハ譲渡人ハ其譲渡ヲ爲シタルコトヲ債務者ニ通知セ又ハ債務者カ其譲渡ヲ承諾スルカ如シ民法第四六七條之ニ反シテ裏書譲渡ハ爲替手形ニ其旨ヲ記載スルノミヲ以テ手形債權者ヲシテ完全ナル債權ヲ取得セシメ其權利ハ債務者及ヒ第三者ニ對シテ之ヲ對抗スルコトヲ得ヘキナリ

第二 民法上ノ債權譲渡ハ其債權カ存在スルコトヲ擔保スル義務ヲ生セシムルコトヲ原則トシ其債權カ果シテ支拂ハルヘキモノナルコトヲ擔保スルモノニ非ス故ニ若シ譲渡人ヲシテ債權ノ支拂アルヘキコトヲ擔保セシメントセハ別段ニ其約束ヲ爲ササルヘカラス之ニ反シテ爲替手形ノ裏書ハ裏書人ヲシテ當然支拂人カ支拂ヲ爲スモノナルコトヲ擔保セシム

第三 民法上ノ債權譲渡ハ譲渡人ノ權利ヲ其債權受人ニ移轉スルニ過キタル

モ爲替手形ノ裏書ハ其被裏書人ヲシテ手形上獨立ノ權利ヲ取得セシムヘシ此區別ハ手形法則上最重要ナルモノニシテ裏書譲渡ト債權譲渡トヲ區別スル著シキモノナリ債權譲渡ヲ受ケタル者ハ其讓渡人ノ權利ヲ繼承スルモノナルカ故ニ讓渡人ニ對シ存スル抗辯事由ハ讓受人ニ於テモ亦之ヲ認メサルヘカラス然レトモ爲替手形ノ被裏書人ハ裏書ニ因リ獨立ナル權利ヲ得タル者ト看做スカ故ニ債務者カ其前者ニ對シ對抗シ得ヘキ事由ト雖モ之ヲ容ルルコトヲ要セス

第二 裏書ノ形式

爲替手形ノ裏書ハ手形ノ裏面ニ之ヲ爲スヲ以テ通例トスルモ若シ(一)其手形ノ原本ニ裏書ヲ爲ス餘地ヲ存セサルトキ又ハ(二)原本ニ手形ノ裏書ヲ爲ス便宜ヲ得サルトキハ原本ノ裏面外ニ之ヲ爲スコトヲ得即チ第一ノ場合ニ於テハ補箋ヲ附シ之ニ裏書ヲ爲スコトヲ得ヘク第二ノ場合例ヘハ支拂人ニ對シ手形原本ヲ以テ支拂ノ引受ヲ請求シツアル間ニ其手形ノ裏書ヲ爲ストキハ手形ノ原本ト作り之ニ裏書ヲ爲スコトヲ得ルカ如シ(第四五七條故ニ裏書ハ手形ノ原本

補箋又ハ其謄本ニ於テ之ヲ爲スヘシ然レトモ此等ノ紙面以外ニ爲シタルモノハ其效力ヲ有セス其當事者ノ意思ハ如何ニ明瞭ニシテ且ツ完全ナリトスルモ到底裏書タル效力ヲ有スルコト能ハス

前ニ謄本ノ必要ナル場合ニハ手形所持人ハ隨意ニ之ヲ作成スルコトヲ得ヘキ旨ヲ述ヘタリ是レ其通例ナリトス但シ謄本ニ裏書ヲ爲ストキハ其裏書ノ原本ノ一部トシテ效力ヲ有スルモノナルヲ以テ此ノ如キ裏書ヲ爲シタルトキハ手形ノ原本ハ支拂人ニ送付シタルモノナルコトヲ手形謄本ニ記載シ被裏書人ヲシテ手形原本ヲ受取ルノ便宜ヲ得セシメサルヘカラス何トナレハ此便宜ヲ得セシメサルトキハ謄本ニ依ル裏書人ト被裏書人トノ間ニハ裏書譲渡ノ效アルコト勿論ナルモ第三者ニ對シテハ其效力ナクレハナリ(第五二三條第五二四條參照)又補箋ヲ附シ之ニ裏書ヲ爲ストキハ其補箋タルコトヲ明カニシ且ツ將來ノ紛爭ヲ避クル爲メ補箋ノ綴目ニ其署名ヲ爲スコトヲ要ス

以上ハ裏書ヲ爲スヘキ箇處ニ關スル説明ナルモ次ニ生スル問題ハ如何ニ裏書ヲ爲スコトヲ得ルヤニ在リ第四百五十七條ノ規定ニ依レハ(一)正式裏書(二)略式

裏書ノ區別ヲ爲スコトヲ得正式裏書トハ前ニ説明シタル如ク手形ノ原本補綴又ハ其原本ニ年月日ヲ記載シ被裏書人ヲ表示シ且ツ之ニ裏書人カ署名スルモノヲ謂フ而シテ裏書人及ヒ被裏書人ノ住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セス然レトモ其住所ヲ記載スルコトハ權利ヲ行フ場合ニ實際上便益アルコト明カナルヘシ何トナレハ之ニ依リ手形權利ヲ行フヘキ場所ヲ知ルコト容易ナレハナリ

(第四四二條略式裏書トハ被裏書人及ヒ年月日ヲ記載スルコトナク單ニ裏書人ノ署名ノミヲ以テ爲スモノヲ謂フ所謂白地裏書ト稱スルモノ是ナリ略式裏書ニハ年月日ノ記載ヲ要セサルモ之ヲ記載スルコトハ或場合ニハ極メテ便益ナルコトアリ而シテ年月日ヲ記載スルモ略式裏書タルコトヲ妨クス略式裏書ニハ年月日ノ記載アル場合ノ便利ハ例ヘハ左ノ如シ

第一 變造ノ手形ニ裏書ヲ爲シタル場合 變造ノ手形ニ裏書ヲ爲シタル者ハ變造以前ニ裏書シタルモノト推定スルヲ以テ第四三七條其以後ナルコトヲ主張スル者ハ反證ヲ舉グルコトヲ要シ裏書人ハ十分其利益ヲ保護セラルヘキモ若シ裏書ノ年月日ヲ記載スルトキハ少クモ此點ニ關スル紛爭ヲ避クルコトヲ

得シ又之ト反對ニ被裏書人ハ此場合ニ於ケル其年月日ヲ記載セシムル利益ヲ有スヘシ

第二 裏書ハ満期日後ニ爲シタルモノト其前ニ爲シタルモノトニ從ヒ效力ニ大ナル相違アリ

略式裏書ニ依リ手形ノ移轉アリタル後ハ其手形ハ引渡ノミヲ以テ流通スルカ故ニ此點ヨリ觀ルトキハ手形ハ恰モ無記名式ナルモノノ如ク流通スルモ略式裏書ニ依リテ流通スル手形ト無記名手形トヲ混視セサルコトヲ要ス而シテ二者ノ相異ナル要點ヲ擧クレハ左ノ如シ

爲替手形ノ略式裏書ニ依ル所持人カ容易ニ其權利ノ侵奪セラルル危險ヲ避ケントセハ自己ヲ被裏書人トシ更ニ正式ノ裏書トシ手形ヲ流通セシムルコトヲ得第四六一條之ニ反シテ無記名式手形ノ所持人ハ記名式ニ變更シ流通セシムル權利ヲ有セサルコト勿論ナリトス故ニ手形權利ヲ實行スルニハ手形ノ占有ヲ移スノミニテ足ルノ點ハ二者全ク相類スト雖モ其實大差アルモノト知ルヘシ以上ハ裏書ノ形式ニ關スル説明ナリ次ニ裏書人ハ裏書ヲ爲スニ當リ附加ノ意

思表示ヲ爲シ手形上ノ效力ヲ生セシムヘキモノアルコトヲ説明セシ
爲替手形ノ裏書ニ附加スヘキ事項左ノ如シ

一 支拂地ニ於ケル豫備支拂人ノ記載

爲替手形ノ振出人カ豫備支拂人ヲ記載シテ手形上其效力ヲ有セシムヘキコト
ハ既ニ之ヲ説明セリ裏書人カ豫備支拂人ヲ記載スル理由及ヒ利益モ亦振出人
カ之ヲ記載スル場合ト同一ナリ若シ支拂人ハ手形上引受ヲ爲ス義務隨テ支拂
ヲ爲ス義務ヲ有スルモノニ非サルカ故ニ手形所持人ノ請求引受又ハ支拂ノヲ
受クルニ際シ之ニ應セサルコトアルヘキハ豫期セサルヘカラス若シ支拂人ニ
於テ振出人ノ委託ヲ承諾セサルトキハ振出人ハ其信用ヲ失フノ危険アルノミ
ナラス後ニ論スル如ク擔保ヲ供シ又ハ償還ヲ爲ス爲メ多少ノ損失ヲ被ルコト
アリ裏書人モ亦手形上擔保義務者ナルコトハ手形振出人ト同一ニシテ同一ノ
虞アルモノナルヲ以テ之ト同シタ豫備支拂人ヲ記載スル權利ヲ有スルコトヲ
認メタリ(第四五八條)

裏書人カ豫備支拂人ヲ記載シタル場合ニ於テ支拂人カ引受ヲ爲ナス又ハ其手

形カ不拂ト爲リシトキハ所持人ハ拒絕證書ヲ作り直チニ其前者ニ擔保又ハ償
還請求ヲ爲スコトヲ得ス之ヲ爲スニハ先ツ豫備支拂人ニ對シ引受又ハ支拂ノ
請求ヲ爲ササルヘカラス若シ豫備支拂人ノ記載アルニ拘ラス之ヲ措キ直チニ
前者ニ對シ右ノ請求ヲ爲ス如キ不注意アルトキハ所持人ハ豫備支拂人ヲ記載
シタル者及ヒ其後者ニ對スル手形上ノ權利ヲ喪失スルノ結果ヲ生ス尙ホ此事
ハ後ニ至リテ詳説スヘシ(第五〇八條)

二 手形裏書人ハ其裏書ヲ爲スニ當リテ手形上ノ義務ヲ負擔セサル旨ヲ記載
スルコトヲ得(第四五九條)

三 爾後裏書ヲ禁止スル旨ノ記載ヲ爲スコト(第四六〇條)
前ニ手形ノ振出ヲ論スルニ當リ振出人カ手形ノ裏書ヲ禁止スル旨ヲ記載シタ
ルトキハ其手形ハ流通證券タル性質ヲ失フヘキコトヲ述ヘタリ裏書人カ爾後
裏書ヲ禁止スル旨ヲ記載シタル手形ハ流通證券タルニハ毫モ影響ヲ受クルコ
トナシ蓋シ振出人ニ於テ流通證券トシテ發行シタル手形ハ其他ノ者ノ意思ヲ
以テ其效用ヲ變シ振出人ノ意見ヲ阻碍スヘキ道理ナクレハナリ即チ振出人ノ

記載シタル裏書禁止ト裏書人ノ記載シタルモノトハ其效力同シカラス而シテ、裏書人カ裏書禁止ヲ爲シタル場合ニ於ケル效力ノ範圍ニ付テ一言センニ例ヘハ甲振出人乙受取人丙支拂人ノ間ニ成立シタル爲替手形ヲ乙カ丁ニ裏書スルニ當リテ爾後裏書ヲ禁止スル旨ヲ記載シタルニ丁カ之ヲ戊ニ裏書シタリトモハ戊以後ノ所持人ハ唯乙者ニ對シテ擔保又ハ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得タルニ過キサルナリ換言セハ其效力ハ裏書禁止ノ意思表示ヲ爲シタル者ノ爲メノミニ生スルモノニシテ其後ノ裏書人又ハ振出人ナル甲者ノ爲メニハ何等ノ效力ヲ有セス蓋シ手形ノ振出人及ヒ裏書人ハ本來擔保義務ヲ負フモノナルヲ以テ特ニ法律ノ許シタル意思表示ヲ爲ササルトキハ原則ニ從ヒ義務ヲ負擔スヘキモノナレハナリ

裏書人カ手形ノ裏書ヲ爲スニ當リテ手形上ノ義務ヲ負擔セサルコトヲ記載シ又ハ裏書禁止ノ記載ヲ爲ス目的ハ裏書人カ振出人及ヒ其前者ノ資力ニ疑ヲ存スル場合ニ若シ支拂人カ支拂ヲ爲ササルトキハ自己ハ償還義務ヲ履行スルモ反求ヲ爲スニ由ナキ結果ヲ豫想シ之ヲ豫防セントスルニ在ルコトヲ通例トス

故ニ此記載アル手形ノ流通ハ自然澹滞スルコトヲ免レサルナリ然レトモ此事項ヲ記載スル目的ハ必スシモ右ノ如キ場合ニ限ルモノト信スヘカラス或場合ニ於テハ手形ハ如何ナル信用ヲ有スルヤヲ試験スル爲メ之ヲ記載スルコトナシトセス何トナレハ若シ手形ニ手形上ノ義務ヲ負擔セサル旨又ハ爾後裏書ヲ禁止スル旨ノ記載アルニ拘ラス其手形カ容易ニ流通スルトキハ是レ其十分ナル信用アルコトヲ徴憑スルニ足ルヘケレハナリ又或場合ニ於テハ前二箇ノ事情以外ニ此記載ヲ爲スコトアリ例ヘハ甲カ事實上乙ノ代理人トシテ手形ヲ受取リタル場合ニ丙ニ裏書ヲ爲ストキノ如シ甲者ハ乙ノ代理人トシテ受取リタルモノナルカ故ニ實際何等ノ利益ヲ有セス是レ此記載ヲ爲シ擔保義務ヲ免ルル必要アル所以ナリトス(第四五九條第四六〇條)

第三 裏書ノ效力

裏書ノ效力ヲ論スルニ付テハ場合ヲ區別シテ説明スルヲ便宜トス蓋シ或場合ニ於ケル效果ハ他ノ場合ニ異ナルコトアレハナリ

第一 單純ナル裏書ニシテ其裏書ノ期時カ拒絕證書作成期以前ナルトキ此稿

合ニ於ケル裏書ハ本然ノ性質ニ因ル完全ナル效力ヲ生スルコト左ノ如ク
 (イ) 手形權利ノ移轉 裏書人カ手形上ニ有スル權利ハ被裏書人ノ權利ト爲ル
 被裏書人ハ手形ノ支拂人ニ對シ支拂ノ引受ヲ請求シ、満期日ニ支拂ヲ請求スル
 コトヲ得ヘシ又若シ満期日ヲ待テテ自ラ支拂ヲ求ムルコトヲ欲セサルトキハ
 他人ニ裏書譲渡ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ要スルニ被裏書人カ裏書人カ有セシ
 ト同一ノ地位ニ在ルモノナリ

(ロ) 裏書人ハ自己ノ權利ヲ譲渡スト同時ニ擔保義務ヲ負擔ス詳言スレハ裏書
 人ハ所持人ニ對シ手形上ノ義務即チ満期日前ニ支拂ノ引受ヲ爲サシムヘキコ
 ト満期日ニ手形金額ヲ支拂ハシムヘキコトヲ擔保ス但シ此效力ハ裏書ニ必然
 ノモノニ非ス裏書人カ爾後裏書ヲ禁止スル旨ヲ記載シタル場合ハ此義務ヲ負
 擔スルコトナシ又略式裏書アリタル以後ノ受取人ハ手形ノ授受ノミヲ以テ手
 形上ノ權利ヲ移轉スルモノナルカ故ニ其受取人ハ自己ヲ被裏書人トシ正式裏
 書ヲ爲シタル場合ニ於テノミ擔保ノ義務ヲ負擔スルニ過キサルナリ

第二 代理裏書 代理裏書ハ手形權利ノ實行ヲ爲サシムル爲メニスル裏書ニ

シテ其權利ヲ移轉スルコトヲ目的トスルモノニ非ス例ヘハ銀行又ハ執達吏ヲ
 シテ手形金ノ取立ヲ爲サシムル場合ノ如シ此場合ニ於テハ手形ニ其旨ヲ明記
 スルヲ必要トス何トナレハ若シ此記載ナキトキハ其裏書ハ單純ナルモノト看
 做サルルヲ以テナリ(第四六三條代理裏書ノ場合ニ於テハ裏書人ト被裏書人ト
 ノ關係ハ純然タル代理法ノ原則ニ依リテ支配セラルヘキモノニシテ代理被裏
 書人ハ其裏書ニ因リ手形權利ヲ實行スルコトヲ得ルモ其結果ハ總テ裏書人ニ
 歸スルモノナリ又代理被裏書人ハ手形權利ヲ實行スルニ付キ必スシモ自ラ之
 ヲ爲スコトヲ要セス同一ノ裏書方法ニ依リ他人ヲシテ其實行ヲ爲サシムルコ
 トヲ得ルモノトス(第四六三條第二項代理被裏書人ハ其裏書人ノ代理人ナルカ
 故ニ第三者ニ對シテハ裏書人ノ地位ニ在ル者ト謂ハサルヲ得ス其結果トシテ
 手形上ノ關係人カ本人タル裏書人ニ對抗シ得ヘキ總テノ防禦方法ハ代理被裏
 書人ニモ亦之ヲ對抗スルコトヲ得ヘシ

代理裏書ハ右説明ノ如クナルカ故ニ實際ニ於テハ手形ノ支拂ヲ延期シ又ハ償
 還義務ヲ免レントスル場合ニ代理裏書アリタルモノナルコトヲ主張シ以テ其

裏書人ニ對スル抗辯ノ理由ヲ利用セント試ムルコトアリ又ハ手形ノ裏書ハ事實代理裏書ナルニ拘ラス形式ヲ單純ノ裏書トシ裏書人ニ對抗セラルヘキ事由ヲ妨ケントスルニ用フルコトアリ

第三 質入ノ裏書 負債ノ辨濟ヲ擔保スル爲メニ債權者ヲ被裏書人トシテ之ヲシテ手形權利ヲ行フコトヲ得セシムルヲ目的トスル裏書ナリ此場合ニ於テモ亦手形ニ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス何トナレハ若シ其記載ナキトキハ爾後善意ノ受取人ニ對シテハ單純ノ裏書ト看做サルモノナレハナリ質入被裏書人ハ同一ノ目的ヲ以テ更ニ他ニ裏書ヲ爲スコトヲ得第四六三條第二七項)

第四 拒絕證書作成期間後ノ裏書 以上説明シタル所ハ裏書ノ種類ナリ今茲ニ説明セントスルモノハ裏書ノ時期ニ關シ特ニ掲タルモノニ外ナラス而シテ右第一乃至第三ニ通シテ行ハルルヘキモノナリ拒絕證書ヲ作成スル時期ハ満期日後二日內トス此後ノ裏書ニ依ル被裏書人ノ權利ハ單純ニ裏書人ノ有シタル權利ヲ其儘承繼スルニ過キス其前ニ於ケル裏書ノ如ク被裏書人ヲシテ獨立ノ債權ヲ取得セシムルコトナシ(第四六二條)蓋シ爲替手形ハ拒絕證書作成ノ期間

ヲ經過シタルトキハ債務者カ所持人ニ對シテ履行ヲ約シタル債務ハ既ニ其時ニ固定セタルモノト謂ハサルヘカラサルヲ以テ其以後ニ手形ヲ取得シタル者ニ對シテハ復タ獨立ノ債務ヲ約スル意思アリト認ムルコトヲ得ス故ニ拒絕證書作成期日後ノ裏書ニ依ル被裏書人ハ單純ニ裏書人ノ權利ヲ承繼スルモノナリト規定シタリ此規定ノ結果トシテ手形ノ被裏書人ハ其債務者カ裏書人ニ對抗スルコトヲ得ヘキ總テノ防禦方法ヲ認容スルコトヲ免レサルナリ

第五 逆裏書 前ニ手形ノ裏書ハ何人ノ爲メニモ之ヲ爲スコトヲ得ヘキ旨ヲ陳述セリ茲ニ説明セントスル所ハ手形上既ニ關係ヲ有スル者ニ裏書ヲ爲ス場合ニシテ通例ノ場合ト異ナルモノ例ヘハ手形ノ裏書人タリシ者カ被裏書人タル如キコトアリ故ニ便宜上逆裏書タル名稱ヲ用フ蓋シ此場合ニ於ケル裏書ノ效力其モノノミニ付キ觀察スレハ通常ノ裏書ニ於ケルモノト全ク同一ニシテ裏書人ハ被裏書人ニ對シテ別段ノ意思表示ヲ爲ササル限りハ既ニ述ヘタル如ク手形上ノ義務ヲ負擔スルモノトス然リト雖モ逆裏書ニ於テハ既ニ存スル被裏書人タリシ手形關係ニ因リ通常ノ裏書トハ實際上相違ノ點ヲ見ル例ヘハ裏書

讓渡ノ關係上裏書人トシテ義務ヲ負擔シタル者ノ如シ其義務ハ同一手形ノ被裏書人ト爲リシ爲メ消滅セタルカ故ニ其裏書ニ因リ得タル權利ヲ實行スルニ當リテハ影響ヲ受クヘキコト自ラ明カナルヘシ是レ特ニ説明ヲ爲ス所以ナリ而シテ其場合ヲ示セハ左ノ如シ

(一) 甲ハ振出人ニシテ乙及ヒ丙ハ裏書讓渡人丁ヲ所持人戊ヲ支拂人ト假定シ丁カ支拂ノ引受ヲ爲サザリシ戊ニ裏書ヲ爲シタルトキハ支拂人戊ハ固ヨリ手形上債務者ニ非サルカ故ニ通例ノ被裏書人ト同シテ請求權ヲ行フニ何等ノ影響ヲ受クルコトナカルヘシト雖モ若シ裏書讓渡人タル丙カ被裏書人ト爲リタルトキハ丁ニ對シテ前ノ裏書ニ因リ償還義務者タル地位ニ在ルモノナルカ故ニ一方ニ於テハ償還請求權ヲ有スルモ他ノ方面ニ於テハ償還義務ヲ履行スルコトヲ要スルモノトス故ニ丁ニ對スル權利ハ實際ノ利益ナシト謂ハサルヘカラス

(二) 振出人カ被裏書人ト爲リタル場合 蓋シ振出人ハ通例手形關係上最終ノ償還義務者ナルカ故ニ一旦償還請求權ヲ行フヘキモ前ノ手形關係アル爲メ被

裏書人タル地位ヲ有スルコト能ハサル場合アルコトハ前掲ノ例ニ於ケルト雖ナルコトナシ

(三) 支拂引受人カ被裏書人ト爲リタル場合 民法ノ規定ニ依レハ此場合ハ満同ノ原則ニ依リテ債務關係カ消滅スヘキモノナルモ手形ノ満期前ニ於テハ支拂引受人ト雖モ被裏書人トシテ其取得タル權利ヲ利用割引スルコトヲ得サル理由ナキヲ以テ支拂引受人ト雖モ亦被裏書人タルヘキコトヲ規定セリ第四五六條但シ自己ハ主タル債務者ナルヲ以テ満期後ニ至リテハ被裏書人タル權利ヲ得ルニ由ナシトス

第三節 引 受

手形ノ引受トハ手形ニ關スル商法ノ規定ニ依リ爲替手形ノ所持人ニ對シ其振出人カ爲シタル支拂ノ委託ヲ承諾スルコトヲ謂フ抑モ爲替手形ノ所持人ハ満期日ニ手形金額ノ支拂ヲ支拂人トシテ記載セラレタル者ニ對シ請求スルコトヲ得ルモ所謂支拂人ナル者ハ爲替手形ニ記載シタル金額ノ支拂ヲ委託セラレ

タルニ過キサレモノナルカ故ニ手形法律關係ニ於テハ支拂ヲ爲ス義務ヲ有スルモノニ非ス但シ實際ニ於テハ支拂人ハ振出人ニ對シ情誼上若クハ通例民商事上ノ法律關係ニ因リ支拂ヲ爲スコトヲ通例ナリトス然レトモ是レ素ト手形債務ノ成立ニ關係スルモノニ非ストノ說ハ既ニ總論ニ於テ述ベタル所ノ如シ故ニ支拂人トシテ記載セラレタル者ハ必スシモ支拂ノ引受ヲ爲シ其支拂ヲ爲スヘキモノニ非ス其引受及ヒ支拂ヲ爲スヤ否ヤハ全ク其自由ノ意思ニ因ルナリ即チ手形カ満期日ニ果シテ支拂ハルヘキヤ否ヤハ未定ナリト謂ハサルヲ得ス蓋シ此未定ハ手形所持人ノ爲メニハ極メテ不利益ナリ何トナレハ手形ノ支拂ノ引受アルヤ否ヤ隨テ其支拂アルヤ否ヤ不確定ナルトキハ其手形ハ流通上流滯スルコト必然ノ理ナルヲ以テ振出人若クハ裏書人ニ十分ノ信用アルトキハ仍ホ流通ニ支障ナシトスルモ既ニ引受アル手形ニ比スヘカラサルコト極メテ親易キノ道理ナリ是ヲ以テ手形所持人ハ満期日前ニ支拂人カ引受ヲ爲スヤ否ヤヲ確ムルノ便益アリ故ニ法律ハ所持人ヲシテ満期日前ニ支拂ノ引受ヲ請ルコトヲ得セシメ何時タリト雖モ自己ノ欲スル如ク其請求ヲ爲ス權ヲ

(c) 保全處分

即チ破産財團ノ管理ノ補助トシテ法律ハ左ノ事項ヲ規定セリ

(イ) 拂渡差押命令 破産宣告ト共ニ破産者ニ對シテ債務ヲ負ヒ又ハ破産財團ニ屬スル物ヲ占有スル者ハ破産者ニ債務ノ支拂ヲ爲シ又ハ占有物ノ交付ヲ爲サスシテ却テ管財人ニノミ爲スヘキ旨ヲ公告シ又財團ニ屬スル物ノ占有者ハ其占有及ヒ其占有物ニ付キ優先權ヲ有スルトキハ其權利ヲ破産裁判所ノ定メタル期間内ニ破産主任官ニ對シ届出ツヘキ義務ヲ課セラル此命令ヲ拂渡差押命令ト謂フ第一〇〇六條第一項第九八〇條第四號第五號第一〇二三條第一項

逸新破産法第一一八條

拂渡差押命令ノ前半ハ法律上獨立の效力ヲ生スルモノニ非ス却テ唯破産者ニ對シ法律上ノ錯誤ニ基キ占有物ノ交付又ハ債務ノ支拂ヲ爲ササルコトヲ注意シタルノミ何トナレハ破産財團ニ屬スル財産ノ破産の差押ハ破産手續開始決定ニ依リテ發生シ拂渡差押ノ行使ニ關係ナクハナリ是ヲ以テ拂渡差押命令ヲ缺クト雖モ破産財團ニ屬スル物ヲ破産者ニ交付シ及ヒ破産財團ニ屬スル債權ノ支拂ヲ破産者ニ爲スカ如キハ法律上許ス所ニ非サルナリ拂渡差押命令ノ後

半ハ破産財團ニ屬スル財産ノ占有者ニ對シ届出ヲ爲スヘキ義務ヲ負ハシムル
法律上獨立シタル效力ヲ發生ス隨テ此義務ハ拂渡差押命令ノ公告ナキ以上ハ
發生セズ破産財團ニ屬スル財産ノ占有者カ拂渡差押命令アリタルニモ拘ラズ
届出義務ヲ履行セズ又ハ届出ヲ遅延セタルトキハ之ニ基キテ生ザタル損害例
ヘハ換價並ニ配當ノ遅延ニ因リテ生シタル特別ノ費用届出ノ遅延ニ因リテ占
有物カ受ケタル價格減少ニ基キテ生シタル損害ヲ賠償セサルヘカラス此損害
賠償權ハ破産債權者團體ニ屬スル權利ニシテ其機關タル管財人ニ依リテ行使
セラル隨テ破産手續終局以後各債權者ノ主張スルコト能ハサルモノナルヤ旨
ヲ埃タス

届出義務ノ不履行ニ基テ損害賠償義務ノ成立ハ届出義務者カ拂渡差押命令ノ
發セラレタルコトヲ知リタルヲ要件トス何トナレハ損害賠償義務ハ義務者ニ
對シテ責ムヘキ事情ニ基テ原則トシ且ツ我破産法ハ此原則ニ反スル意思ヲ
明ボセサレハナリ届出義務者カ拂渡差押命令アリタルコトヲ知レルヤ否ヤノ
立證ハ何人カ舉タル所ナルヤノ問題ニ關シテハ獨逸ノ法學者間ニ於テ大ナル

論争アリ「ゾーフエルド」(ザルヘー)ハ獨逸新破産法第八條ハ特別ノ場合ニ於ケル推
定ニシテ又公告ニ依リテ届出義務者カ拂渡差押命令ヲ知リタルモノトノ法律上ノ
推定ナキヲ以テ管財人ハ爭アル場合ニ於テ届出義務者カ其義務ノ發生原因タ
ル拂渡差押命令アリタルコトヲ知リタル旨ヲ主張シ且ツ之ヲ立證セサルヘカ
ラスト論決シ「ワールモスキ」(ペーナルゼン)氏等ハ破産宣告ハ其公告ニ依リテ
破産者ト取引ヲ爲シタル者ニ對シ事實上速ニ認識セラルモノナリ拂渡差押
命令モ亦之ニ同シト謂ハサルヲ得ス何トナレハ此命令ハ通常破産宣告ト同時
ニ公告セラルモノナレハナリ隨テ届出義務者カ拂渡差押命令アリタルコト
ヲ知リタルノ事實ハ立證セラルルヲ要セス届出義務者ノ損害賠償義務ハ斯ル
立證ナクシテ法律上發生スルモノナリ然レトモ破産財團ニ屬スル財産ノ占有
者ヲ破産者ニ對シ支拂ヲ爲シタル債務者ヨリ(獨逸新破産法第四八條)賠償スル
ハ何等ノ理由ナキヲ以テ獨逸新破産法第八條ノ準用トシテ届出義務者ニ拂渡
差押命令アリタルコトヲ知ラサル旨ノ反證ヲ舉タルコトヲ許スヲ得ルモノト
スト論決シタリ(獨逸新破産法第一一九條)余輩ハ我破産法ノ解釋トシテハ後説

ヲ正當ト認ム何トナレハ若シ然ラスハ拂渡差押命令ノ公告ハ法律上其效用ヲ有セサルヲ以テナリ

(四)目的物ヲ占有シタル別除請求權者ノ提示義務 別除請求權ノ目的物ヲ占有スル別除請求權ヲ有スル債權者ハ管財人ニ對シテ其占有ヲ届出ツヘキ義務ヲ負フノミナラス管財人ノ求メニ因リ之ニ檢閲ノ爲メニ目的物ヲ提示シ引渡シ非ス且ツ其評價ヲ許スヘキ義務ヲ負フ(第一〇一二條)獨逸新破産法第一二〇條是レ管財人ハ別除請求權ノ目的ヲ賣却シ且ツ其賣得金ヲ讓受破産財團ニ入ルヘキ權限ヲ有ス隨テ價格ヲ確知スルノ必要アルヲ以テナリ而シテ別除請求權者カ義務ヲ履行セサルトキハ管財人ハ通常ノ訴訟手續ニ依レハ訴ヲ以テ其義務ノ履行ヲ強制スルコトヲ得ヘシ

(ハ)債務者ニ宛タル送達物ノ管財人ニ對スル交付 破産手續ノ開始ハ當然破産者ニ宛タル電信書狀其他ノ運送物ヲ名宛人ニ交付スヘキ郵便局及ヒ電信局等ノ義務ヲ變更スルモノニ非ス然レトモ法律ハ破産財團ニ屬スル財産ヲ發見スルカ爲メ及ヒ管財人ニ破産者ノ實情ヲ確知セシムルカ爲メニ破産手續ノ開始以

後職權ヲ以テ又ハ管財人ノ申立ニ因リ破産者ニ宛タル電信書狀其他ノ送達物ヲ管財人ニ交付スヘキコトヲ郵便局及ヒ電信局其他ノ運送取扱所ニ對シ命令スルコトヲ得セシメタリ(第一〇〇六條第三項第五項)憲法第二六條此命令ハ裁判所カ職權ヲ以テ郵便局及ヒ電信局等並ニ管財人ニ送達セサルヘカラス(民事訴訟法第二四五條)準用此命令ノ送達ニ因リテ郵便局及ヒ電信局ハ該命令ヲ遵守スヘキ義務ヲ負ヒ其他私設運送取扱所ハ該命令ヲ遵守スヘキ義務ヲ負フ何トナレハ裁判上ノ命令ハ裁判上ノ差押ト同シタ一ノ義務ヲ發生セシムルヲ以テナリ隨テ私設運送取扱所カ此義務ニ違反シタルトキハ之ニ基キ生シタル損害ヲ賠償スルノ責任ヲ負フ

管財人ハ此命令ニ依リ破産者ノ立會ヲ要セスシテ之ニ宛タル送達物ヲ開封スルノ權ヲ有ス是レ前ニ示シタル理由ヨリ生スル當然ノ結果ナリ而シテ破産者ハ送達物ノ檢閲ヲ管財人ニ求メ又其趣旨即チ内容カ破産財團ニ關係ナキトキハ其引渡ヲ管財人ニ對シテ請求スルコトヲ得又管財人ハ之ヲ引渡ササルヘカラス(第一〇〇六條第四項)但シ管財人カ其義務ヲ履行セサルトキハ商法第千

三條ニ從ヒテ異議ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ管財人ハ送達物ヲ自己ニ送達スヘキ旨ヲ命シタル決定ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得ス何トナレハ破産債權者團體ハ此決定ノ廢棄ニ付キ何等ノ利益ヲ有セザレハナリ破産者ハ此命令ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤニ關シテハ獨逸法學者ノ爭フ所ナリ例ヘハ「フニルド」ニ「スチグリフ」氏等ハ破産者ハ該命令ニ對スル反抗トシテ獨逸舊破産法第百十一條第二項獨逸新破産法第一二一條第二項ニ規定シタル命令ノ廢棄又ハ制限ヲ申立ツルコトヲ得ルヲ以テ抗告ヲ許ストノ論旨ハ訴訟手續簡略ノ目的ニ反スルヲ理由トシテ消極的ニ論決シ「フツテンダ」ヘーテルゼン「ウエルモスキ」氏等ハ獨逸舊破産法第六十六條獨逸新破産法第七三條ニ基キ即時抗告ヲ許スヘキモノト論決シタリ我破産法ノ解釋トシテハ余輩ハ法律上何等ノ明文ナキヲ以テ抗告ノ途ナシト論決スルヲ正當ト信ス

管財人ハ送達物ノ交付命令ヲ求ムル申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得タルヤ否ヤ是レ亦獨逸法學者ノ爭フ所ナリ「ゾーフニルド」ニ「スチグリッ」氏等ハ獨逸舊破産法第六十六條（獨逸新破産法第七三條）ニ基キ積

極的ニ論決シ「フツテンダ」ヘーテルゼン氏等ハ裁判ノ前示命令ヲ發セザルコト即チ不行爲ニ對シテハ管財人ハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス蓋シ抗告ニ裁判アルヲ前提トスルヲ以テナリトシ之ヲ消極的ニ論決シタリ我破産法ノ解釋トシテハ余輩ハ法律上何等ノ明文ナキヲ以テ抗告ノ途ナシト論決スルヲ正當ト認ム管財人ニ送達物ヲ交付スヘキ旨ノ命令ハ他ニ何等ノ制限ナキ以上ハ破産手續中存続スルモノトス而シテ獨逸新破産法第二十一條第二項ハ破産裁判所ハ破産者ノ申立ニ因リテ管財人ヲ審訊シタル後何時ニテモ此命令ノ廢棄若クハ制限（期間ノ制限或ハ送達物ノ特定ノ注意ニ關スル制限）ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ規定シタリ我破産法ニ於テ斯ル明文ヲ缺クハ立法上ノ缺點ナリ

（ニ）動産ノ封印 裁判所ハ破産宣告ト同時ニ債務者ノ動産ニ封印ヲ命ス（第一〇條第一項獨逸舊破産法第一一二條獨逸新破産法第一二四條佛蘭西商法第四五五條第四五八條封印スヘキ物件ハ動産ニシテ不動産ニ非ス何トナレハ紛失又ハ隱匿ノ恐アル物ハ動産ナレハナリ會社ノ破産ニ於テハ連帶無限ノ責任ヲ負ヘル總社員ノ動産ニ對シテ封印ヲ命ス（第一〇條第二項是レ佛蘭西流ノ説

明ニテハ會社ノ社員同時ニ連帶無限責任ノ法理ニ因リテ其責任ヲ負フ法意ニ基クニ非スシテ却テ連帶無限責任ノ效用ヲ害スルニ至ルヲ豫防スルニ在リ
動産ノ封印ハ破産債權者團體ノ利益ノ爲メニ行フカ故ニ破産財團ニ屬セリ
物件腐敗若クハ失價ノ爲メニ即時ノ換價ヲ必要ト爲ス物件其他封印ノ爲メニ繼續利用ヲ妨クラレタル物件總破産債權者ノ利益ノ爲メニ破産ノ營業ヲ續行スルニ必要ナル物件(第一〇一七條參考)如キハ封印ヲ爲サス蓋シ此等ノ物件ニ對シテハ封印ヲ施スカ爲メニ破産債權者團體ノ利益ヲ害セ或ハ其利益ト爲ラタルヲ以テナリ隨テ前者ノ如キハ財産目錄ニ記載スルヲ以テ足レリトシ後二者ノ如キハ財産目錄ニ記載シタル後之ヲ換價シ或ハ之ヲ繼續利用スルカ爲メニ管財人ニ占有セシメサルヘカラス(第一〇一四條第二項、第一〇〇五條第一〇一七條佛蘭西商法第四六九條第四七〇條)獨逸新破産法第一二二條高價ナル物件ハ封印ヲ以テ之ヲ確實ニ保全シ得ヘキモノニ非ス何トナレハ封印破産ニ關スル刑法上ノ制裁ヲ被ルモ之ヲ隱匿セントスルノ決心ヲ容易ニ爲サシムルヲ以テナリ是レ法律カスル物件ヲ財産目錄ニ記載ノ上即時ニ管財人ニ交付スルカ

貨ト交換サルルニ因リテ始メテ成立スルモノナルカ故ニ甲ノ價格ハ其現在交換サルル乙ノ分量ニシテ乙ノ方ヨリ言ヘハ乙ノ價格ハ其現在交換サルル甲ノ分量ナリ例ヘハ米一升ト茶一斤ト交換サルルトキハ米一升ノ價格ハ茶一斤ニシテ茶一斤ノ價格ハ米一升ナリ然ラハ則チ價格ナルモノハ決シテ單獨ニ存在スルモノニアラス他ニ比例シ他ニ關係シテ起ラサルヘカラス而シテ其起ルヤ自由交通ノ經濟社會ニ在リテハ財貨ヲ相互ニ交換スル人人ノ合意ニ因ルモノトス財貨ニシテ通常交換サレ自由交通ノ經濟社會ニ最も多ク存在スルモノヲ稱シテ之ヲ貨物ト謂フ貨物ト常ニ交換サレ交換ヲ其職分トスルモノヲ稱シテ之ヲ交換ノ媒介ト名ク今日ノ社會ニ於テハ貨幣即チ是ニシテ實ハ貨物ノ一種ナリ(CIO)

(CII) 價格ハ財貨ヲ交換スル人人相互ノ合意ニ因リテ定マルモノトス而シテ通常世人ノ間ニ交換サルル財貨ハ即チ貨物ナリ無形ノ財貨モ亦交換サルルコトナキニシモアラサルモ是レ特別ノ場合ニ屬ス而シテ直接ニ欲望ヲ滿タスヲ職分トセスシテ交換ヲ職分ト爲スモノヲ交換ノ媒介ト稱ス貨幣即チ

是ナリ貨幣モ亦一種ノ貨物ナレトモ他ノ貨物ト異ナル所ハ交換ヲ常職トスルニ在リ

財貨ハ其交換サルル式其レ式多クノ種類ノ價格ヲ有ス即チ各種ノ財貨ハ之ト交換サルル他ノ財貨ニ對シ相互ニ交換ノ媒介タリ(二)此ノ如ク價格ハ單ニ一箇(III)財貨ハ常ニ貨幣トノミ交換サルルモノニアラスシテ他ノ財貨ト交換サルルコトアリ此ノ如ク一ノ財貨カ貨幣ノ媒介ニ依ラスシテ直接ニ他ノ財貨ト交換サルル場合ニ於テハ其財貨ハ交換サルル毎ニ價格ノ種類ヲ増スモノトス例ヘハ米一升カ麥一升五合ト交換サルルトキハ米一升ノ價格ハ麥一升五合ナリ而シテ此一升ノ米カ更ニ茶一斤ト交換サルルトキハ此米ニハ二種ノ價格ヲ生シタル譯合ナリ即チ麥ニ對シテハ一升五合茶ニ對シテハ一斤ノ價格アルナリ故ニ交換サルル財貨ハ相互ニ交換ノ媒介タルモノナリ然レトモ價格其モノト價格ノ高低トハ自ラ別物ナレハ此二者ヲ混同スヘカラス

ノ財貨ノミニテハ存在セシテ數箇ノ財貨ノ比較ニ因リテ始メテ成立スルモ

ノナルカ故ニ一財貨ノ價格カ騰貴セリト謂フハ其交換上他ノ財貨ヲ得ル比例ノ増加シタルコトニシテ一財貨ノ價格カ下落セリトハ交換上他ノ財貨ヲ得ルノ比例減少シタルコトナリ故ニ一財貨ノ價格カ他ノ種種ノ財貨ニ對シテ全體同時ニ下落スルハ其他ノ財貨ト交換シ得ル比例ノ減少シタルニ外ナラス(III)然レトモ總テノ財貨カ同時ニ互ニ相騰貴シ又ハ互ニ相下落スルコトハ決シテ

(III) 一財貨ノ價格ノ騰貴トハ其他ノ財貨ト交換サルルニ當リ從來ヨリモ多クノ分量ヲ得ルコトト爲リタルヲ謂ヒ其下落トハ他ノ財貨ト交換サルルニ當リ從來ヨリモ少ナキ分量ヲ得ルコトト爲リタルヲ謂フモノトス

出來得ヘカラサル事ナリ何トナレハ價格ハ素ト二種以上ノ財貨ノ交換比例ナレハ一方ノ騰貴スルハ一方ノ下落スルコトニシテ雙方共ニ騰貴シ若クハ共ニ下落スルコトハ決シテ出來得ヘカラサルコトナレハナリ(III)然ルニ世間往往

(III) 財貨ノ價格ハ二種以上ノ財貨カ互ニ相交換サルル比例ナルヲ以テ一方ノ騰貴ハ即チ一方ノ下落ヲ示スモノニシテ雙方共ニ騰貴シ又ハ共ニ下落スルコトハ理ニ於テ決シテ有リ得ヘカラサルコトナリ之ヲ例ヘハ恰モ井ノ

釣瓶ノ如シ即チ二箇ノ釣瓶ノ中一方カ下レハ必ス一方ハ上リ之ニ反シ一方カ上レハ一方ハ必ス下リ二箇共ニ同時ニ上リ又ハ下ルコトハ決シテナキナリ
物價騰貴ノ聲ヲ聽ク之ヲ以テ總テノ財貨カ同時ニ騰貴シタルモノナルカ如ク思惟スル者アルモ本來決シテ然ルニアラス斯ル思想ノ由リテ來タル所以ヲ尋ズルニ畢竟今日ノ經濟社會ニ於テハ米一升ノ價格ハ茶一斤ナリ茶一斤ノ價格ハ半紙五帖ナリナトト曰ハスシテ金十五錢ナリトカ或ハ金二十錢ナリトカ曰ヒ貨幣ヲ以テ交換比例ノ標準ト爲スヲ以テ總テノ物ノ價格カ騰貴シタルカ如ク見ユルハ其貨幣ニ對スル交換比例ノ上リタルコトニシテ貨幣以外ノ物ノ騰貴シタルニ過キスシテ是レ取リモ直サス貨幣ノ下落ナリ方今社會一般ノ有様ヲ觀ルニ獨リ貨幣賣買ノ方法ノミ既ニ久シク世ニ行ハレ居ルヲ以テ物價ノ騰貴トハ貨幣ノ下落ナルコトヲ知ラサルモノ多キニ過キス(四)

(四) 世間往往物價騰貴ヲ以テ總テノ物ノ價格ノ騰貴ト解スル者アルモ是レ未タ其眞想ヲ知ラサルモノナリ物價騰貴トハ總テノ物ノ騰貴シタルニアラスシテ貨幣ノ價格カ貨幣以外ノ總テノ財貨ニ對シテ下落シタルニ過キサ

ルモノトス

貨幣ヲ以テ言ヒ表ハス所ノ價格ヲ稱シテ物價又ハ市價ト曰フ故ニ市價ハ種種ノ財貨ト貨幣トノ交換比例ニシテ價格ノ一種ト看做ササルヘカラス而シテ之ヲ貨幣カ種種ノ財貨ニ於ケル關係ノ點ヨリ觀察スルトキハ貨幣ト交換サルル種種ノ財貨ハ貨幣ノ市價ニアラスシテ其價格ナリ(五)

(五) 貨幣ニテ言ヒ表ハス價格ハ即チ物價又ハ市價ナリ此市價ナル語ハ世上ニ於テ時刻刻變動極リナキ價即チ時價ト同一ニ用ヒラルルコトアリ然レトモ茲ニ謂フ市價ハ其意義之ヨリモ廣シ即チ他ノ財貨ノ貨幣ニ對スル價ヲ謂フモノニシテ價格ノ一種ナリ然レトモ貨幣カ他物ニ對シテ有スル價格ハ其市價ニアラスシテ價格ナリトス

此ノ如ク市價ナルモノハ種種ノ財貨ト特種ノ財貨タル貨幣トノ交換比例ナレハ此貨幣ノ他ノ財貨ニ對スル價格ニシテ騰貴スレハ他ノ財貨ノ市價ハ全體同時ニ騰貴ス時ニ下落シ貨幣ノ價格ニシテ下落スレハ他ノ財貨ノ市價ハ全體同時ニ騰貴スヘキナリ故ニ價格ニハ決シテ全體同時ニ昇降スルカ如キコトナキモ市價ニハ

之アリトス所謂物價騰貴トハ即チ貨幣購買力ノ下落ニシテ物價下落トハ貨幣購買力ノ騰貴ニ外ナラサルナリ(二六)

(二七) 物價ノ下落ヲ換言スレハ貨幣ノ騰貴ナリ物價ノ騰貴ハ貨幣ノ下落ナリ然レトモ茲ニ注意スヘキハ物價ノ下落ハ貨幣ノ騰貴ナリ物價ノ騰貴ハ貨幣ノ下落ナリト曰フハ是レ唯一ノ事實ヲ言ヒ表ハセタルニ過キスシテ此事實ヲ言ヒ表ハスニ過サルコト物價高低ノ原因ハ何ニ基クカトノ問題ハ自ラ別種ノ事ナリトス再言スレハ物價ノ騰貴ハ即チ貨幣ノ下落ニ基クモノナリト概言スヘキモノニアラス先ツ物價ノ騰貴カ貨幣ノ下落ト爲ル場合ヲ述フレハ例ヘハ銀貨本位ノ國ニ於テ銀ノ產出高増加シ其需要之ニ伴ハス却テ減少スルカ如キ事アラハ銀ノ價格下落スルヲ以テ物價ノ騰貴ヲ來スモノナリ然レトモ貨幣ノ價格下落セスシテ物價ノ騰貴スルコトアリ例ヘハ農產物ノ一タル米カ凶作ナルカ爲メ供給減少シ又ハ或事情ノ爲メ需要増加スルトキハ米價ヲシテ騰貴セシムルモ是レ固ヨリ貨幣ノ價格ノ下落ニ原因スルニアラス又物價下落スルモ貨幣ノ價格騰貴セルニ基カサルコトアリ例ヘ

ハ米穀豐穰ニシテ供給大ニ増加スルトキハ米價ハ下落スルモ是レ明カニ貨幣ノ價格騰貴シタルカ爲メニアラス故ニ物價昇降ノ原因ハ貨幣價格ノ變動ニハ毫モ關係ナク貨物夫レ自身ノ變動ニ原因スルコトアルモノトス而シテ貨幣ノ下落ニ因ラスシテ貨幣以外ノ總テノ財貨力同時ニ騰貴スルコトハ甚タ稀ナルモ決シテ絶無ト謂フヘカラス即チ進步ノ速カナル國ニ在リテハ往往ニシテ之アルモノトス例ヘハ明治二十七八年ニ於ケル日清戰爭以後ニ於テ諸物價ノ甚シク騰貴シタル原因ヲ考フルニ銀貨ノ下落モ亦之カ一原因ヲ爲シタルモノナランモ此間ニ於ケル物價ノ騰貴ハ決シテ銀貨ノ下落ノミニ基キタルモノニアラス何トナレハ若シ銀貨ノ下落ニ基キテ物價カ騰貴シタルモノナリトセハ銀貨ノ最モ下落シタルトキ即チ戰爭前又ハ戰爭中ニ最モ甚シク物價騰貴ノ事實ヲ來ササルヘカラス且ツ明治三十年銀貨本位制ヲ廢シテ金貨本位制ト爲シ爾來金ノ價格カ騰貴シタルコトハアレトモ下落シタルコトハ全ク之ナキヲ以テ金貨本位實施ト同時ニ若クハ少クトモ之ヨリ一二箇月ヲ經過スレハ一旦騰貴シタル物價モ下落セサルヘカラサルナリ然ルニ

實際ニ於テハ之ニ反對ノ現象ヲ呈シ諸物價ノ騰貴ハ戰爭以後ニ始マリ三十年十月以來却テ益騰貴シ明治三十一年夏期ノ頃ニハ殆ト其極點ニ達シ大ニ經濟社會一部ノ恐慌ヲ來セリ是ニ由リテ之ヲ觀ルモ物價騰貴ハ銀ノ下落ニ基クモノニアラサルコト推シテ知ルヘシ然ラハ物價ノ騰貴ヲ來セル重ナル原因如何ト云フニ我國ノ資金ノ所在カ異ナリタルコト其一ナリ詳言スレハ從前資金ノ大部ハ資本家ノ手ニ在リテ此資本家ニ依リテ資金カ諸種ノ事業ニ給セラレタルヲ以テ銀行ニ在ルトカ其他一定ノ事業ニ投セラレタルモ戰爭後種種ノ事情ノ爲メ其資金ハ下等社會ノ者ニ落チタルコト甚カラス即チ軍夫ノ給料又ハ職工ノ賃銀ト爲リテ此等ノ者ニ歸シタリ特ニ戰爭後種種ノ企業起リタルカ爲メ之ニ要スル諸種ノ材料及ヒ人夫職工ノ需用増加シタルニ因リ隨テ原料ノ代價又ハ職工人夫ノ賃銀ヲ騰貴セシメタリ加之職工人夫等ノ如キ勞働者ハ勤儉貯蓄ノ思想ニ乏シキヲ以テ隨テ得タル賃銀ハ隨テ飲食等ニ使用シタル等ノ爲メ諸物價ヲ騰貴セシメタルモノナリ要スルニ銀ノ下落ハ物價騰貴ノ一原因タルニ過キスシテ其主タル原因ヲ爲スモノニアラス故ニ物價

ノ騰貴ハ貨幣ノ下落ニノミ基クモノニアラサルナリ而シテ一旦狂騰シタル物價カ昨今ニ至リ少シク下落ニ傾キタルハ米穀ノ豐作ナリシト一時勃興シタル民間ノ事業モ經濟社會ノ不振ニ鑑ミ幾何カ差控ヘラルルニ至リタルカ爲メナリ元來物價ノ騰貴ハ貨幣ノ下落ニ基クヤ否ヤニ付テハ歐洲ニ於テモ議論アル所ニシテ銀貨本位論者ハ歐洲ニ於ケル近時ノ物價下落ハ金貨ノ騰貴シタルカ爲メナリト説キ反對論者ハ生産法ノ改良交通機關ノ發達等ニ由リ廣義ノ生産費大ニ減少シタルニ因ルモノトセリ然レトモ何レモ極端ニ走リタル議論ニシテ二者共ニ物價下落ノ原因ヲ爲セルモノト謂ハサルヘカラス之ニ關スル詳細ノ事ハ此ニ説明スルノ暇ナキヲ以テ省略スルモ物價ノ高低ハ單ニ貨幣ノ高低ニ基クモノニアラサルコトヲ記憶セサルヘカラス

第四章 經濟

人類ハ其欲望ヲ満足セシメムトスルニ當リ最少ノ勞費ヲ以テ最大ノ結果ヲ得ンコトヲ願フモノナリ是レ實ニ人類ノ天性ヨリ生スル經濟主義ト稱スヘキモ

ノナリ此主義ニ據リ一定ノ計畫ニ基キ規則正シキ順序方法ヲ履ミテ欲望ヲ満足セシメンカ爲メ經濟上ノ財貨ヲ絶ユス獲得シ使用スルヲ以テ目的ト爲ス活動ヲ稱シテ之ヲ經濟ト曰フ此種ノ活動ノ總テニシテ欲望ト其満足トノ範圍内ニ在リテ自ラ一箇ノ系統ヲ爲シ又ハ一箇ノ系統ヲ爲セリト認メラルヘキモノヲ稱シテ之ヲ社會經濟又ハ國民經濟廣義ト曰フ故ニ社會經濟ハ一箇ノ有機體ニシテ活動アルモノナリ此有機體ニ屬スル各箇ノ活動ヲ名ケテ之ヲ經濟的活動ト曰ヒ之ニ關スル當該現象カ即チ經濟現象タルナリ

經濟ニ關スル人類ノ活動ヲ稱シテ單簡ニ活動ト曰フヘキカ將タ又勞力ノ活動即チ勞動ト曰フヘキカハ歐米ノ學者カ往往疑ヲ懷ケル所ナリ「ワグネル氏曰ク土地ニ對スル地代又ハ家屋ニ對スル賃貸料ノ如キ收益ノミヲ目的トスル財產ノ單純ナル管理ト雖モ亦常ニ勞動ノ觀念ニ屬スヘキ活動ヲシテ必要ナラシムルノミナラス既ニ獲得セル收入ヲ使用スルコトスラ亦同シ但シ經濟主格ノ要スル勞動ノ分量ト種類トニ關シテハ經濟ヲ觀念ノミニテハ未タ何等ノ定マレルコトナキノミ是レ自ラ別問題ナリ故ニ單ニ活動ト曰ハンヨリモ勞力ノ活動

又ハ之ト同意義ノ勞動ヲ「語字ヲ用フルヲ以テ適當ナリト云云然リト雖モ地主ノ單純ナル地主トシテ爲ス所資本家ノ資本家トシテ爲ス所又ハ爲サザル所ハ往往之ヲ勞動ト稱スルヲ得ス然レトモ亦經濟的ノ活動タルニハ相違ナシ故ニ予ハ寧ロ活動ヲ「單簡ナル語ヲ採リ此中ニ勞動ト勞動ニアラサル經濟的ノ活動トノ二者ヲ包含セシムルヲ以テ適當ナリト認ムル者ナリ

第五章 經濟的活動ノ前提

第一節 社會

一箇人ハ單獨孤立シテ其生活ノ目的ヲ達シ得ルモノニアラス必スヤ他ノ人人ノ助力ヲ要スルモノナリ故ニ人類ノ互ニ相合シテ團體ヲ結フハ誠ニ自然ノ必要ナリ人類ノ團結ニシテ之ニ屬スルモノノ共同ノ目的ヲ達セシカ爲メ存在スルモノヲ稱シテ之ヲ社會ト曰フ社會ニシテ總テノ人類ト總テノ生活ノ目的ヲ包括スルモノヲ稱シテ之ヲ人類社會ト曰フ而シテ社會ニ於ケル人類ノ間ニハ種種様様ノ共同の活動アリ其中ニ在リテ單ニ欲望ノ満足ノミヲ以テ目的ト

「スルモノヨリ觀察スレハ人類社會ハ即チ是レ經濟社會ナリ經濟社會ニ於ケル人類ノ協力同心ハ直接ニ共同ノ主權者若クハ共同ノ代表者カ定メタル諸令ニ據リテ行ハルモノニアラス」箇人ト一箇人又ハ國民ト國民トカ經濟上ノ目的ヲ以テ互ニ相接スルニ當リテハ其經濟的活動ハ寧ロ自然的ニ行ハルモノナリ但シ自然的ヲフ語詞ハ絕對的ノ意義ヲ有スルモノニアラスト知ルヘシ然リ而シテ經濟的活動ノ主タル原動力ハ自利心 (Self-interest, Interest, personal, Eigenzucht) ナリ自利心トハ人人ノ其欲望ヲ可成の十分ニ満足セシメント欲スル願意ニシテ「イエリング氏ノ以テ最少ノ勞費ヲ爲シテ最多ノ結果ヲ奏スルノ力ナリト爲ス所ノモノナリ自利心ノ極端ニ馳セ部陋ニ流ルモノヲ稱シテ之ヲ我利心 (egoïsmes, égoïsme, Selbsucht) ト曰フ自利トハ他人ニ損害ヲ與ヘサル範圍内ニ於テ自己ノ利益ヲ謀ルコトナリ我利トハ他人ニ損害ヲ與フルヲモ順スシテ唯自己ノ利益ヲノミ是レ謀ルコトナリ二者ノ間自ラ微妙ノ區別アリ自利心ハ實ニ經濟的活動ノ主タル原動力ナリト雖モ人類ノ社會の生存ヨリシテ必然生セサルヲ得サル公共心ノ爲メ多少ノ制限ヲ蒙ルモノトス故ニ經濟現象

ヲ支配スル主要ノ力ハ自利心ニシテ之ヲ助クルモノハ公共心ナリ公共心ノ働ノ範圍ハ社會ノ狀態ニ應シテ大ニ異ナリ或ハ發シテ慈善事業ト爲リ或ハ一般ノ風俗習慣ヲ形成シ或ハ公ニ認メラレテ一國ノ法律制度上採ラルル所ノ主義ト爲ル隨テ經濟現象ヲ論スルニ當リ單ニ自利心ノミヲ以テ根據ト爲スハ時ニ大ニ誤謬タルヲ犯レス

第二節 國家

人類並ニ社會ノ目的ヲ十分ニ達シ得ンカ爲メ人類社會ニ在リテ稍ヤ狭小ナル團體ノ結ハルルアリ之ヲ名ケテ國家ト曰フ國家ハ畢竟人類社會ノ一部分ニシテ一定ノ區域アル領土内ニ在リテ共同ノ主權ヲ奉シ社會ノ維持ト發達トヲ目的トスルモノナリ然リ而シテ一箇ノ社會其モノトシテノ國家ト社會制度トシテノ國家トハ之ヲ區別セサルヘカラス後者ハ國家主權ノ下ニ立テ國民ヲ指導シ全體トシテ其共同ノ目的ヲ達スルノ方針ニ向ハシムルモノナリ國權ノ作用ハ結局一ニ之ヲ以テ其目的トス

社會制度トシテノ國家ハ二箇ノ重要ナル職分ヲ有ス曰ク

第一 立法行政司法ノ手段ニ據リ法制ヲ確立シ之ヲ維持シ公共ノ秩序ヲ整ヘ以テ國家的社會即チ狹義ノ社會ニシテ一國家ト相一致スルモノニ屬スルモノノ共同生活ヲシテ出來得ヘカラシムルコト

第二 妨害ヲ除去シ妨害的ノ影響ヲ避ケ且ツ人文ノ發達ヲ助ケル獎勵的ノ制度組織ヲ設ケテ社會進化ノ目的ヲ達セシムルコト

即チ是ナリ

人類ノ經濟生活ニ取リテ最重要ノ關係アル法律制度ハ國民ノ財貨殊ニ有形ノ貨物ニ對スル關係ヲ規定スルモノナリ財產制度即チ是ナリ乞フ之ヲ次節ニ論セン

第三節 財產制度

前既ニ論スルカ如ク人類ト人類ノ經濟トハ唯社會アルヲ假定シ茲ニ始メテ其存在ヲ認ムヘキモノナルハ更ニ疑フヘラス而シテ多數ノ人カ相集リテ社會ヲ

成シ共同ノ生活ヲ營ムニハ必スヤ國家的ノ制度組織ナカルヘカラス是ヲ以テ國家ト國家ノ法制トハ實ニ人類ト其起原ヲ同シウレテ頗ル古シ國家的制度ノ在ル以前ニ異議ノ人類アルハ到底ルソー輩ノ想像タルニ止マリ絕對的自由ノ簡人アリ相集リテ任意ニ協議ヲ盡シ茲ニ始メテ國家社會ヲ組織シタルモノナリ國家ノ起原ハ契約ニ在リト説クハ實ニ一箇ノ思想タルニ過キサルナリ(一)

(二) 太古ノ事ハ歴史ニ徵スレハ多少之ヲ知り得ヘキカ如シト雖モ歷史上ニ太古ト稱セラルルモノハ異ノ太古ニアラス眞ノ太古ノ事ハ實際之ヲ明カニ知ルヘラスト謂ハサルヘカラス然リト雖モ人類並ニ人類ノ經濟現象ハ社會ト名クヘキ人類ノ集リテ成セル部落アルニアラサレハ存在スルヲ得ス社會アルノ前ニ生産現象ナトカ多少行ハレタリトセハ是レ今日ノ所謂經濟現象トハ全ク異ナリタルモノナリ(此等ハ經濟學ノ定義ヲ論スルニ當リ詳細ニ説明セン然リ而シテ多數ノ人カ相集リテ部落ヲ作り共同生活ヲ爲スニハ多少國家的ノ制度ヲ要ス固ヨリ今日ノ如キ比較的ニ完全ナル制度組織ヲ常ニ要スルニハアラサレトモ上下ノ別治者被治者ノ別アリテ人類ノ行爲ヲ驅束

スルモノハ多少之ナカルヘカラス即チ少ナクとも國家組織ノ幼稚ナルモノハ存在セサルヘカラス實ニ社會ナルモノハ國家ノ組織ト相待テ存在スルモノニシテ國家ノ組織ナクシテ有機體タル社會ノ存在スヘキ道理ナシ此事ハ「スベンサー」ノ社會學ニ據ルモ明カナル所ナリ國家組織ノアル前ニ已ニ真正ノ人類アリタリト曰フハ「ルソー」等ノ妄想臆斷ニ過キヌ彼等ノ説ク所ニ依レハ人間ハ生レナカラニシテ天賦ノ自由ト權利トヲ有ス故ニ此等ノ人間カ相集リテ協議ノ上國家ヲ作リタルモノト曰ヘリ然リト雖モ此ノ如キ思想アル人類ハ國家的制度組織ノ少シモナカリシ時ニ存在セ得ヘキニアラス且ツ國家ナルモノハ人類共同生存ノ必要ニ迫ラレテ成立スルモノニシテ協議ニ成ルト云フカ如キ機械的ノモニアラス國家組織以前ノ人類ハ單ニ旦ニ食シタニ寢スル事ヲ知ルノミニテ有無交換ノ思想ナク人類ノ人類タル社交の生活ヲ爲セタルモノニアラス故ニ此等ノ人類ハ真正ノ人類ニアラスシテ下等動物ト取テ擇フ所ナシ是ニ由リテ之ヲ觀レハ「ルソー」輩ノ所説ハ到底妄誕無稽ノ議ヲ免ルヘカラサルナリ要スルニ近世ノ意味ニ於ケルカ如キ人間ア

産力ニ依リテ新ニ生産セラレタル産物ノ額ヲ超過スヘカラス再ヒ他ノ語ヲ以テ言ヒハ一箇月ノ支出ハ一箇月ノ收入ヲ超過スヘカラス

(註) 尤モ生産的技術ノ進歩ニ因リ又ハ全ク資本存在セザリシ時ト異ナリ既存ノ資本ヲ利用シテ生産ヲ爲ストキハ益々有益ナル生産方法ヲ採ルコトヲ得ルカ故ニ資本ノ減損ヲ補充セテ資本存在ノ現狀ヲ維持スルコトハ資本ノ皆無又ハ少カリシ時ヨリ新ニ之ヲ作り若クハ増加シテ原狀ニ損スルコトニ比スレハ少キ勞力ヲ以テ足ル場合少カラス例ヘハ「ルソー」ハ弓矢製造ノ熟練ト新智識ヲ得タルカ爲メ嘗テ三十日ヲ費シタルト同様ノ武器ヲ僅ニ十八日ニテ作ルコトヲ得ルニ至ルコトアルヘク又弓矢ヲ新調スルニハ三十日ヲ要シ毎日少シモ手入ヲ爲ササルトキハ一箇月ノ使用ニ因リテ全ク破損ニ了ルヘキモノヲ毎日十五分間宛手入ヲ爲ストキハ能ク二箇月間保續スルカ如キコト屢々見聞スル所ナリ故ニ毎日減損スル丈ノ過去ノ産物一定量ヲ生産スルカ爲メニ費サレタル過去ノ勞力ノ分量ヨリ少量ナル現在ノ勞力ヲ將來ノ爲メニ費スコトニ因リテ尙ホ資本ノ現存額ノ遞減ヲ免ルルコトヲ得ル場合

ナキニアラサルナリ而シテ若シ新ニ資本ヲ増加セント欲セハ「クルーシ」十時間ノ労働時間中再ヒ武器ヲ新調シテ始メノ武器ノ破損ニ備フルカ爲メ毎ニ一時間ヲ費シ残り九時間全體ヲ覆盆子ノ拾集、高麗ノ狩獵ニ用フルコトヲ以テ満足スルコト能ハス彼ハ八時間ノ労働ヲ以テ現在ノ享樂ニ具ヘ新ニ貯蓄セラレタル餘分ノ生産力ヲ以テ新資本ノ作成ヲ爲ササルヘカス換言スレハ現在ノ生産力ニ依リテ新ニ發生セシムルコトヲ得ヘキ生産物全體ニ比シテ少量ナル生産物ヲ現在ノ享樂ニ供ヘサルヘカラス詳シク言ヘハ新ニ資本ヲ増加セント欲セハ舊ニ舊資本ノ缺損ヲ補填スルニ必要ナルモノノ外尙ホ一層多ク現在ノ生産力ヲ現在ノ享樂ニ用ニ供スルコトヲ節約シテ之ヲ將來ノ用ニ充當セサルヘカラス

以上述ヘタル設例ノ如クナルヲ以テ資本ハ貯蓄ト労働ト二者相俟テ發生スルモノナリト云フ學說ハ最モ至當ナルモノナリ

第三章 生産ノ組織

生産ノ組織トハ生産要素即チ自然、勞力、資本ヲ生産ノ目的ニ向テ協同セシムル社會上ノ仕組ヲ謂フナリ

時トシテ一人ニテ生産ニ必要ナル總テノ要素ヲ有スルコトアリ此場合ニハ生産ノ要素ヲ結合セシムルニハ技術上ノ組織ヲ要スレトモ社會上ノ組織ヲ要セサルナリ然レトモ生産ヲ爲スニ必要ナル勞力、資本等ノ要素カ一人ノ手ニ備ハラサルトキニ當リテ此等ノ生産要素ヲ結合セシメント欲セハ或種類ノ社會上ノ組織若クハ制度ナカルヘカラス

昔時人文未タ開クス人身ノ自由十分ニ認識セラレサル時ニ在リテハ社會ノ强者ハ弱者ヲ強制シテ自己ノ配下ニ屬セシメ自己所有ノ資本ト土地ニ勞力ヲ加ヘシメテ生産ヲ爲サシタルコトアリ此ノ如キ制度ヲ奴隸制度ト謂フ

現今ノ社會ニ於テハ人身ノ自由ヲ認ムルカ故ニ勞働能力ノ外何物ヲモ有セサル多數ノ民衆アレトモ之ヲ強迫シテ生産ニ從事セシムルコト能ハス又私有財産制度一般ニ行ハレ産業ノ規模ハ益々膨脹スルカ故ニ生産ヲ爲スニ必要ナル資本、土地、勞力ハ全部一人ノ所有ニ屬セサル場合少カラス是ニ於テ貸財ヲ生産セ

シト欲スル者ハ其事業ノ成否如何ニ拘ラス一定ノ報酬ヲ與フルコトヲ約シテ他人ニ屬スル生産要素ヲ集メ自己ノ有スル生産要素ト結合セシメテ始メテ目的ヲ達スルコトヲ得ルヲ通常トス此ノ如ク自己ノ危險ト計算トラ以テ自己及ヒ他人ニ屬スル生産要素ヲ集メテ生産業務ヲ經營スル者ヲ企業者ト謂ヒ企業者ニ依リテ營マルル生産業ヲ企業ト謂ヒ以上ノ如キ條件ノ下ニ數人ニ屬スル生産要素ヲ生産ノ目的ニ向テ結合セシムル社會上ノ組織ヲ企業組織ト謂フ

第一節 企業ノ種類

企業ハ種種ノ標準ニ依リテ之ヲ分類スルコトヲ得ヘシ

(一)規模ノ大小ヲ以テ之ヲ分ツトキハ 大企業小企業ノ二ト爲スコトヲ得ヘシ 企業ヲ大規模ニ營ムトキハ左ノ如キ利益アリ

(1)資本ヲ節約スルコトヲ得セシム 例ヘハ二萬鎊ノ紡績工場一箇ヲ作ルニハ一萬鎊ノ工場二箇ヲ建設スルニ比スレハ其費用少ク百馬力ノ蒸機一臺ヲ運轉スルニ必要ナル石炭ハ五十馬力ノモノニ臺ニ費スモノニ比スレハ其分

量少カルヘシ此ノ如ク大企業ハ生産高ニ比較シテ一般ニ資本ノ使用ヲ節約スルコトヲ得セシム

(2)發明改良ヲ利用スル機會多シ 文明諸國ニ於テハ精神上ノ所有權ナルモノヲ認メ新發明ヲ爲シタル者新意匠ヲ出シタル者ニ特權ヲ與ヘテ之ヲ保護ス大企業者ハ此等ノモノニ相當ノ報酬ヲ與ヘテ其發明新意匠ヲ自己ノ産業ニ應用スルコトヲ得レトモ小企業者ハ其費用ニ堪ヘサルコト多シ其他大企業者ハ多數ノ技術者ヲ雇傭シ置キ其一部ノ者ヲシテ全ク日常ノ業務ニ關與セス實ニ其事業ニ關スル發明改良ノミニ盡力セシメ其成績ノ舉ルニ隨ヒテ事業ニ應用スルカ如キ場合少カラスト云フ現ニ獨逸ノ或アニリン染料製造業ニ於テハ發明改良ノコトノミニ從事セシムルカ爲メニ常ニ高等ノ技術者數十人ヲ雇ヒ置クト云フ

(3)勞力ノ效驗ヲ大ニス 大企業ハ多額ノ報酬ヲ與ヘテ業務ニ適スル有爲ノ人物ヲ雇入ルコトヲ得ヘク多數ノ勞力者ヲ使役スルカ故ニ分業制度ヲ實施シ各勞働者ニ其能ニ應シテ適當ナル仕事ヲ與フルコトヲ得ヘシ

(4) 廢物ヲ利用スルコトヲ得セシム 例ヘハ大規模ノ石油精製所ニ於テハ良油ヲ取リタル殘滓稍々多量ナルヲ以テ機械油ヲ製造シテ尙ホ多少ノ利益ヲ收ムルコトヲ得ルモ小精製所ニテハ其量少キヲ以テ之ヲ如何トモスル能ハサルカ如キ是ナリ

(5) 附屬ノ工業ヲ自營スルコトニ由リ經營ヲ節約スルコトヲ得セシム 例ヘハ大製造所ニハ附屬ノ機械製作所ヲ具ヘテ機械ノ修繕小道具ノ製作等ヲ營ミテ他ノ工場ニ依頼スル煩勞ヲ避ケ經費ヲ節約スルコトヲ得ルカ如キ是ナリ

(6) 資本ノ借入レ原料ノ買入製造品ノ販賣ニ付テ小企業ニ比スレハ便益多シ大企業ハ右ノ如ク諸種ノ便宜アリト雖モ多少ノ缺點ナキニアラス例ヘハ大企業ニ於テハ事業經營ノ實務ハ雇入若クハ企業ノ成否ニ關シテ唯一部分ノ責任ノミヲ有スル一二ノ組合員ニ委任スルコト多シ此等ノ人人ハ事業ニ對スル利害ノ關係切ナラサル所ヨリシテ企業ノ成否ニ關スル全體ノ責任ヲ有スル者ニ比スレハ注意周到ナラサルノ弊アリ右ノ如キ缺點アルニ拘ラス大企業ハ小企業

ニ比シテ利益多キ故ニ苟モ事業ノ性質カ大企業ヲ容ストキハ其規模ハ益々膨脹シ小企業ハ漸次大企業ノ爲メニ壓倒セララルハ勢ノ免レサル所ナリ

産業ノ集中ハ現今ノ大勢ニシテ之ヲ如何トモスルコト能ハスト雖モ多少之ヲ制限スルノ原因ナキニアラス例ヘハ

(1) 小發動機ノ使用 例ヘハ電氣發動機瓦斯發動機石油發動機動力發動機風車水車等ノ如キ之ヲ設置スルノ費用割合ニ多額ナラス且ツ其構造簡單ニシテ之ヲ使用スルニ特別ノ技術者ヲ要セサルカ如キ小機械ヲ使用シテ自然力ヲ利用スルトキハ人力ノミニ依リテ貨財ノ生産ヲ爲スニ比スレハ大ニ小企業者ノ不利益ヲ減少スルモノナリ

(2) 實業雜誌ニ依リテ産業ニ關スル新智識ノ普及スルコト 現今ノ社會ニ於テハ新規ノ發明改良等ノ新智識ハ實業雜誌ニ依リテ一般ニ普及スルカ故ニ小企業者ト雖モ普ク之ヲ知り之ヲ利用スルコトヲ得ルカ故ニ此ノ如キ方便ナカリシ時ニ比スレハ此事ニ關スル不利益ヲ減スルコトヲ得ルナリ

(3) 同種ノ産業ヲ一地方ニ集中スルコト 例ヘハ京都市ニ於ケルカ如ク絹織

物ノ小工場ノ多數カ一箇年ニ集中スルトキハ染物ノミヲ專業トスル者アリ、染物ノ中ニ或特種ノ染色ノミヲ専門トスル者アリ又織物ノ仕上ノミヲ専門トスル者アリ、撚糸ノミヲ専門トスル者アリ、向ハ大製造場ニ於テ完全ナル技術上ノ分業アルカ如シ此ノ如ク同種ノ生産ヲ營ム小工場ノ一箇所ニ集中スルトキハ小企業者ト雖モ尙ホ分業ノ利益ヲ收ムルコトヲ得ルモノナリ

(4) 産業組合ノ組成 小企業者ハ相聯合シテ種種ノ産業組合ヲ組成シテ小企業ニ伴フ不利益ヲ輕減スルコトヲ得ヘシ産業組合ニハ組合員ニ産業ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及ヒ賒金ノ便宜ヲ得セシムル者信用組合組合員ノ生産シタル物ニ加工シ又ハ加工セシメテ之ヲ賣却スル者販賣組合産業又ハ生計ニ必要ナル物ヲ購買シテ之ヲ組合員ニ賣却スル者購買組合組合員ノ生産シタル物ニ加工シ又ハ組合員ヲシテ産業ニ必要ナル物ヲ使用セシムル者生産組合等アリ(産業組合法第一條)

(二) 企業者ノ資格ニ依リテ之ヲ分ツトキハ 私人ノ企業ト公ノ企業トノ二ト爲スコトヲ得ヘシ

看做シ當然國籍ヲ喪失スルモノトス然ルニ同國ニ於テ議論アリタルハ勅章ノ定義是ナリ今日ニ於テモ同國ニ於テハ未タ定論ヲ見スト云フ

右ノ外國ノ勅章年金等ヲ受ケタルカ爲メニ國籍ヲ喪失スル例アリ或ハ奴隸ノ所有賣買等ニ因リテ國籍ヲ喪失スル例アリ

次ニ國籍喪失ノ效力ヲ説明スヘシ

國籍喪失カ本人ニ對シ如何ナル效力ヲ生スルカハ今日多數ノ立法例ニ於テ明言セサル所ナレトモ本人ハ國籍ノ喪失ト同時ニ内國人ノ享有スヘキ一切ノ權利ヲ喪失シ義務ヲ免ルルハ一般ノ例ナリトス但シ兵役忌避ノ刑ヲ國籍喪失者ニ對シ科スル旨ヲ規定スル例アリ例ヘハ伊太利ノ如キ是ナリ然ルニ國籍喪失者ノ妻及ヒ未成年ノ子ニ對スル國籍ノ喪失ニ付テハ議論アリ甲說ニ依レハ妻ハ夫ト其國籍ヲ同シウスヘキハ婚姻ノ目的ヲ實行スル上ニ於テ實ニ必要ナルモノナルカ故ニ住所變更ノ場合ト同シク當然夫ノ新國籍ニ從フヘキモノナリ若シ夫カ新國籍ヲ取得セタル場合ハ夫ト同様ニ無籍人タルヘシト而シテ未成年ノ子ノ國籍ニ付テ説明シテ曰ク未成年ノ子ハ法律上父又ハ母ニ依リテ代表セ

ラブルモノナルカ故ニ國籍喪失ノ場合ニ於テモ未成年ノ子ハ父又ハ母ト國籍ヲ同一ニスヘキモノナリ但シ親權ヲ脱シタル者ハ此限ニ在ラスト然ルニ乙説ニ依レハ妻ハ夫ノ國籍喪失ヲ豫想セサルモノナルカ故ニ夫ト同一ノ國籍ニ從フヘキ理由ナシ又父又ハ母カ未成年者ヲ代表スルハ寧ロ未成年者ノ爲メニ設ケタル規定ナルカ故ニ未成年者カ國籍喪失者ノ運命ニ從フヘキヤ否ヤノ問題ハ果シテ子ノ利益ナリヤ先決問題ニ係ルモノナリ然ルニ子ノ利益ハ子ノ意思表示ニ因リテ始メテ分明ト爲ルモノナレトモ未成年者ハ法律上完全ニ意思表示ヲ爲スコト能ハサルモノナルカ故ニ未成年者カ國籍喪失者ノ運命ニ從フハ果シテ子ノ利益ナリヤ否ヤ不明ナリ隨テ未成年者カ成年ト爲ルマデ國籍ノ喪失ヲ停止スヘシ而シテ成年ト爲リタル後本人カ國籍喪失者ノ運命ニ從フヘキコトヲ宣告シタルトキハ其效力ハ既往ニ適ルヘシト又乙説ト類似シタル他ノ一説ニ依レハ未成年者カ國籍喪失者ノ運命ニ從フハ子ノ不利益ナルカ故ニ國籍喪失ノ效力ハ未成年ノ子ニ及フヘカラスト曰ヘリ而シテ各國ノ立法例如何ト顧ルニ之ヲ二ニ大別スルコトヲ得ヘシ一ハ國籍喪失ノ效力ハ妻及ヒ未成年

ノ子ニ及フモノニシテ一ハ之ニ反スルモノナリ而シテ妻及ヒ未成年ノ子ニ其效力ヲ及ホス主義ヲ採ル國ニ於テモ又二種アリ一ハ無條件ニテ效力ヲ及ホスモノト一ハ一定ノ條件ヲ備ヘタルトキ始メテ國籍喪失ノ效力ヲ及ホスモノト即チ是ナリ我國國籍法第二十一條ニ依レハ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者ノ妻及ヒ子ハ本人ノ國籍ヲ取得シタルトキニアラサレハ日本ノ國籍ヲ失ハス而シテ第二十二條ハ之カ例外ヲ規定ス即チ離婚又ハ離縁ニ因リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者ノ妻及ヒ子ニハ前條ノ規定ヲ適用セズ但シ妻カ夫ノ離縁ノ場合ニ於テ離縁ヲ爲サス又ハ子カ父ニ從ヒテ其家ヲ去リタルトキハ此限ニ在ラス右第二十一條ノ規定ハ無籍人ノ發生ヲ豫防センカ爲メニ設ケラレタル規定ナリトス而シテ第二十二條ノ規定ハ入夫縁組又ハ婿養子ハ我國ノ國籍法上國籍取得ノ原因ト爲ル程ノモノナルカ故ニ隨テ妻及ヒ子ハ國籍ヲ失ハサルモノト定メラレタリ但シ離縁ト同時ニ離婚ヲ爲サス又ハ子カ父ニ從ヒテ去リタルトキハ日本ノ家ニ屬セサルモノナルカ故ニ國籍ヲ喪失スヘシト定メラレタリ而シテ獨逸又ハ匈牙利等ノ例ニ依レハ時効ニ因リ國籍ヲ失ヒタル者ノ妻及ヒ未成年ノ子ハ國

籍喪失者ト住所ヲ同シウスル場合ハ始メテ國籍ヲ喪失スルモノトス故ニ國籍喪失者カ新ニ臣民ト爲リタル國ノ法律カ妻及ヒ未成年ノ子ヲ自國ノ臣民ト認メサルトキハ忽チ國際無籍人ヲ發生スル虞アリ

次ニ國籍喪失ト軍事トノ關係ヲ一言スヘシ
外國ノ立法例ヲ觀ルニ例ヘハ獨逸戰爭ノ起リタル場合又ハ開戰ノ虞アル場合ニ於テ國籍ノ喪失ヲ止ムル規定尠カラス然ルニ此等ノ國ニ於テ實際上ヨリ非難スル者アリ其說ニ依レハ戰爭ノ起リタル場合ニ國籍ノ喪失ヲ止ムルハ差支ナキモ開戰ノ虞アル場合トハ果シテ如何ナル時期ナリヤ之ヲ定ムルコト頗ル困難ナルヘシ外交ノ危機切迫シタル場合ニハ開戰ノ虞アリト謂フコトヲ得ヘキモ外國政府ヲシテ徒ニ開戰ノ意アルコトヲ知ラセムル虞アリ是レ政略上適當ノ規定ニアラス蓋シ戰爭ノ起ラサル場合ニ國籍ノ喪失ヲ止ムルハ之ヲ止ムル國ニ開戰ノ決心アルコトヲ推知セシムルモノナレハナリ我國國籍法ニ於テハ此ノ如キ規定ナク唯兵役義務者ノ國籍喪失ニ關スル規定アルノミ即チ國籍法第二十四條ニ曰ク

滿十七年以上ノ男子ハ前五條ノ規定ニ拘ハラス既ニ陸海軍ノ現役ニ服シタルトキ又ハ之ニ服スル義務ナキトキニ非サレハ日本ノ國籍ヲ失ハス

現ニ文武ノ官職ヲ帶フル者ハ前六條ノ規定ニ拘ハラス其官職ヲ失ヒタル後ニ非サレハ日本ノ國籍ヲ失ハス

此規定ハ外國ノ立法例ニ見サル所ナリ蓋シ我國ノ官職ヲ帶フル者ハ國家ノ爲メニ利益ヲ與フル者ナルカ故ニ隨テ官職ヲ喪失シタル後ニ非サレハ國籍ヲ失ハスト定メタルモノナランカ而シテ兵役義務者ノ國籍喪失ヲ止ムル規定中獨逸匈牙利ノ規定ハ最モ詳細ナルモノトス其他伊太利佛蘭西等ニモ兵役義務者ノ國籍喪失ヲ止ムル規定アリ

第四款 國籍回復

國籍回復ハ羅馬法ノ所謂原狀回復ニ倣ヒタルモノニシテ今日多數ノ國ニ於テ何レモ此制度ヲ設ケサルナシ蓋シ國籍喪失者カ再ヒ内國ノ國籍ヲ取得セント欲スル場合ニ普通ノ外國人ト同様ニ之ヲ看做スハ酷ニ失スルトノ考ニ出テタ

ルモノナリトス而シテ國籍回復トハ國籍喪失者カ再ヒ內國ノ國籍ヲ取得セシト欲スル場合ニ歸化ノ手續ニ依ラスシテ簡易ノ方法ニ依リ國籍ヲ付與スルコトヲ謂フ

國籍ノ回復ヲ受クヘキ者ノ資格ニ付テハ各國ノ實例頗ル曖昧ナリ佛國民法ノ文面ニ依レハ一般ノ國籍喪失者ハ同時ニ國籍回復ノ資格ヲ有スルカ如ク又リイリス氏ノ説明ニ依ルモ然ルカ如シト雖モ若シ生後ノ事實ニ因リ佛國ノ國籍ヲ取得セタル者カ佛國ノ國籍ヲ喪失シタル後更ニ其國籍ヲ回復スルコトヲ得トセハ頗ル奇怪ナル結果ヲ生スヘシ蓋シ佛國ノ民法ニ依レハ歸化人ハ生來ノ佛國西人ト同一ノ權利ヲ享有スルコト能ハス然ルニ國籍回復者ノ權利ニ付テハ明文上何等ノ制限ナキカ故ニ生來ノ佛國西人ト同様に權利ヲ享有スルコトヲ得レハナリ隨テ歸化人カ佛國ノ國籍ヲ保有スル場合ニハ其權利ノ制限ヲ受ケ而シテ國籍ヲ喪失シタル後之ヲ回復シタル場合ニハ權利ノ制限ヲ受ケタル結果ヲ生スヘシ故ニ立法上ヨリ言フトキハ國籍ノ回復ヲ爲シ得ヘキ國籍喪失者ノ範圍ヲ制限スルノ必要アリ英米ニ於テハ普通ノ國籍喪失者ニハ國籍回復ニ

付キ恩典ヲ與ヘスシテ歸化ノ手續ニ依ラシムルカ故ニ右ニ違ヘタルカ如キ弊害ヲ見ス是レ我國籍法ニ於テ國籍回復ヲ爲シ得ヘキ國籍喪失者ノ範圍ヲ制限シタル所以ナリトス即チ同法第二十六條ニ曰ク

第二十條又ハ第二十一條ノ規定ニ依リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ日本ニ住所ヲ有スルトキハ內務大臣ノ許可ヲ得テ日本ノ國籍ヲ回復スルコトヲ得

但第十六條ニ掲ケタル者カ日本ノ國籍ヲ失ヒタル場合ハ此限ニ在ラス

即チ我國籍法ニ依レハ歸化人ハ國籍回復ノ恩典ニ浴セサルモノニシテ血統上日本人タルカ又ハ入夫縁組若クハ養子縁組等ニ因リテ日本人ト爲リタル者カ國籍ヲ喪失シタル場合ニ限リ國籍ヲ回復スルコトヲ得ルノミト然レトモ婚姻ニ因リテ國籍ヲ喪失シタル者ハ我國ノミナラス多數ノ國ニ於テ普通ノ國籍喪失者ニ比シ國籍回復ノ手續ヲ簡易ニスルヲ例トス此事ハ尙ホ後ニ説明スヘシ

一般ノ國籍喪失者カ國籍ヲ回復スル手續ハ各國ノ規定固ヨリ同シカラスト雖モ或點ヨリ觀察シテ之ヲ二種ニ大別スルコトヲ得ヘシ一ハ國籍回復ト稱シ

シテ認ムル制度ニシテ一ハ政府ノ許可ニ因リテ始メテ國籍ヲ回復スルコトヲ得ル制度是ナリ匈牙利モナコ等少數ノ國ヲ除ク外我國ヲ始メ其他ノ國ニ於テハ第一種ノ制度ヲ採用ス

婚姻ニ因リ國籍ヲ喪失シタル者ノ國籍回復ニ付テハ我國籍法第二十五條ニ於テ規定セリ曰ク

婚姻ニ因リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ婚姻解消ノ後日本ニ住所ヲ有スルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ日本ノ國籍ヲ回復スルコトヲ得

右婚姻ニ因リ國籍ヲ失ヒタル者ハ第二十六條同シタ歸化人ヲ包含セサルヤ否ヤ我國籍法ノ精神ヨリ解釋スルトキハ歸化人ヲ包含セサルモノト看ルヲ正常トス而シテ各國ノ例ヲ按スルニ其明文ヨリ觀ルトキハ歸化人ヲ包含スルカ如シ然レトモ其實例頗ル曖昧ニシテ或ハ歸化人ヲ包含セサルモノト解釋スルアリ或ハ之ニ反スルアリ而シテ我國ニ於テハ婚姻ニ因リ國籍ヲ喪失シタル者ノ國籍回復ニ付テハ特典ヲ與ヘスト雖モ歐洲諸國中一般ノ國籍回復者ニ比シ特典ヲ與フル例頗ル多シ而シテ匈牙利ノ如キハ婚姻無効ノ場合ニモ國籍ノ回復

ヲ認メタリ是レ一ノ異例ニ屬ス

次ニ國籍回復ノ效力ヲ一言スヘシ

我國ニ於テハ別段ノ規定ヲ設ケサレトモ外國ニ於テハ往往內國人ト同一ノ權利ヲ享有スル旨ヲ規定スル例アリ而シテ此等ノ國ニ於テ問題ト爲シタルハ國籍回復ハ其效力ヲ既往ニ及ホスヤ否ヤノ問題はナリ甲說ニ依レハ羅馬法ノ原狀回復ト同シタ未ダ嘗テ國籍ヲ失ハサルモノト看做スヘシトノ說ヲ唱フル者アリ之ニ反シテ乙說ハ今日ノ國籍回復ハ羅馬法ニ倣ヒタルモノナレトモ其效力ヲ既往ニ及ホストキハ非常ノ弊害ヲ生スルカ故ニ遑及力ヲ明言セサル以上ハ既往ニ遑ラスト解釋スヘシト此說ハ各國ノ實際ニ於テ認メラルモノニシテ學者ハ往往國籍回復ヲ稱シテ第二ノ國籍取得ト曰フ者アリ

國籍回復ハ回復者ノ妻子ニ如何ナル效力ヲ與フルカ我國籍法第二十七條ニ依レハ歸化ニ因リ國籍ヲ取得シタル者ノ妻子ト同一ニ看做サレタリ然レトモ外國ノ例ヲ見ルニ國籍回復ノ場合ニ限リ簡易ノ手續ニ依リテ妻子ノ國籍回復ヲ許ス例尠カラス

國籍回復ハ如何ナル時ヨリ效力ヲ發生スヘキヤ此點ニ付テハ各國ノ規定凡ソ三種アリ即チ國籍回復ノ認可狀交付ノ日ヨリ效力ヲ生スルモノニシテ一ハ認可狀ノ日付ヨリ效力ヲ生スルモノ一ハ宣誓ノ時ヨリ效力ヲ生スルモノ是ナリ認可狀交付ノ日ヨリ效力ヲ生スル規定ヲ有スル國ニ於テ問題ト爲リタルハ交付トハ如何ナル場合ヲ指稱スルヤ即チ本人ニ手渡シタル時ナルカ或ハ發送シタル時ナルカ若クハ本人ノ手許ニ到着シタル時ナルカ瑞西ノ規定ニ依レハ單ニ交付トノミアルカ故ニ書面ヲ送達スヘキヤ或ハ本人ヲ呼出スヘキモノナルヤ明カナラス同國ノ實例ニ於テハ民事訴訟法ノ規定ニ依リ送達ヲ爲セトモ往往之ヲ稱シテ法律ニ反スル無効ノ行爲ナリト非難スル者アリ而シテ我國ニ於テモ亦國籍回復ノ時期ニ付テ明文ヲ掲ケス國籍法ニ於テハ單ニ許可トノミアルカ故ニ如何ナル場合ニ許可ヲ爲シタリト看做スヘキヤ歸化ニ付テハ官報ニ公告スル規定アレトモ國籍回復ノ效力ヲ第三者ニ對抗スル時期ニ付テハ何等ノ規定ナキカ故ニ是レ亦一ノ問題ナルヘシ或ハ認可狀ヲ調製スル主義ヲ我國ニ於テ將來探ルトモハ認可狀ノ日附ヲ爲シタル日ナリヤ或ハ之ヲ本人ニ手

渡シ若クハ送達シタル時ナリヤ明白ナラサルヘシ蓋シ國籍回復ハ契約ナリト解スルトキハ國籍回復ノ請願者ニ對シ意思表示ノ方法ヲ探ラサルヘカラス隨テ認可狀ノ日附ヨリ效力ヲ生スル理由ナカルヘシ此國籍回復ニ付テハ他日詳論スヘシ又之ヲ單獨行爲ナリトスルモ日附ヲ爲セタル場合ニ意思ノ表示アリト爲スヘキヤ否ヤハ問題ナルヘレ要スルニ我國籍法ニ於テ此點ニ付キ規定ヲ設クサルコトヲ惜ム

茲ニ一言附記スヘキハ我國籍法第二十條ノ規定是ナリ同條ニ曰ク

自己ノ志望ニ因リテ外國ノ國籍ヲ取得シタル者ハ日本ノ國籍ヲ失フ

例ヘハ外國ニ歸化シタル者ハ此條ニ依リ我國籍ヲ喪失スヘシト雖モ本條ハ所謂強制的歸化ノ場合ニ之ヲ適用スヘキヤ否ヤニ付テハ議論ヲ生シタリ既ニ說述シタル如ク「ヴェネチヤ」ニ於テハ一定ノ年限間同國ニ住居シタル一事實ニ因リテ同國ノ國籍ヲ取得スヘシ此場合ハ所謂自己ノ志望ニ因ル國籍ノ取得ニアラスト解スル者アリ其理由トスル所ハ「ヴェネチヤ」ノ法律ハ本人ノ意思如何ヲ問ハスシテ同國ノ國籍ヲ付與スルモノナルカ故ニ右ノ住居ニ因リテ得タル

國籍ノ取得ハ法律上ノ結果ナリト謂フヘク之ニ反シテ他ノ説ニ依レハ同國ノ法律ノ規定ヲ知リナカラ一定ノ年限間同國ニ住居スルハ同國ノ國籍ヲ取得スル意思ナリト謂フコトヲ得ヘシ故ニ我國籍法第二十條ノ規定ハ右ノ場合ヲ包含スルモノナリト云ヘリ然レトモ一般ノ學者ハ前説ヲ採ルカ如シ

次ハ自然人以外ノ國籍ニ付テ説明スヘシ

既ニ本論ノ初メニ説明シタル如ク今日國籍ナル文字ハ自然人以外ニ用ヒラレ物件ニ對シテモ國籍ナル文字ヲ用フル例尠カラス例ヘハ河川ノ國籍ノ如キ是ナリ蓋シ河川ノ國籍ハ其存在スル區域ニ依リテ定マルモノニシテ一國ノ領地内ニ在ル河川ハ其國ニ國籍ヲ有スルコト明カナルカ故ニ此場合ハ殆ト實際ノ問題ヲ生シタルコトナシ然ルニ數國ヲ貫流スル河川ニ付テハ展國籍ノ問題ヲ生シタリ然レトモ今日ノ實例ニ依レハ國境ヨリ引キタル直線ニ依リテ其國籍ヲ確定スルコトト爲レリ此問題ハ重ニ國際公法上緊要ナルモノナレトモ國際私法上ニ於テモ之ヲ定ムルコト頗ル緊要ナリトス例ヘハ甲乙二國ヲ貫流スル河川ノ境界上ニ浮ヘタル船舶内ニ於テ不法行爲ヲ爲シタル場合ノ如キ是ナリ

二 土地ノ分割ヲ爲シタル場合

土地ノ分割ハ所有者ノ意思ニ因リテ之ヲ爲スモノト所有者ノ意思ニ拘ラス之ヲ爲スモノトアリ

(イ) 所有者ノ意思ニ因ルモノ(地租條例施行規則第五條) 所有者ハ土地ノ一部ヲ賣却シ質入シ又ハ抵當ニ供スル等種種ノ事由ニ因リ一筆ノ土地ヲ分割シテ數筆ト爲スヲ必要トスルコトアリ此ノ如キ場合ニ於テ所有者カ其意思ヲ表示シテ申告ヲ爲ストキハ其指定シタル區域ニ依リテ區分ヲ爲シ各之ニ地番ヲ附セサルヘカラス

(ロ) 所有者ノ意思ニ拘ラサルモノ(地租條例施行規則第二條) 一筆ノ土地中一部分左ノ場合ニ該當スルトキハ所有者カ分割ヲ爲スコトヲ申告スルト否トニ關セス政府ハ其部分ヲ分割スヘキモノトス

1 別地目ト爲ルトキ 工地ハ地番ニ依リテ表示セラルト雖モ其地目モ亦之ヲ表示スルノ一要素ナリ故ニ一筆ハ同地目ヨリ成ルヘキハ舊來ノ慣例ナリ加之地目ヲ變スルトキハ後ニ説明スヘキカ如ク其地價ヲ修正セサルヘカラサルモ

ノナリ然ルニ地價ハ一筆毎ニ之ヲ定ムルモノナルヲ以テ地價ヲ修正セントセハ勢ヒ修正スヘキ部分ハ一筆ト爲ササルヘカラス故ニ一筆中ノ一部分別地目ト爲リタルトキハ其部分ハ之ヲ分割スヘキモノトス此場合ハ開墾一部成功ノ如キトキニ於テ最モ其適例ヲ見ルモノナリ

2 有租地ニシテ免租地ト爲ルトキ 茲ニ所謂免租地トハ無期免租地ヲ指スモノナリ無期免租地ハ法律ニ依リ當然地租ヲ免除セラルルモノナルカ故ニ有租地ノ一筆中一部分免租地ト爲リタルトキハ其部分ハ之カ地租ヲ免セサルヘカラス然ルニ地租ハ一筆ニ付テ之ヲ定ムルモノナルカ故ニ一筆ノ一部分ノ地租ヲ免スルコト能ハス故ニ地租ヲ免スルカ爲メニハ先ツ以テ其部分ヲ別筆ト爲ササルヘカラス

3 免租地ニシテ有租地ト爲ルトキ 此場合ニ於テモ地租ハ一筆ニ付テ之ヲ定ムヘキモノナルヲ以テ勢ヒ分割スルニアラサレハ地租ヲ課スルコト能ハサルナリ

4 所有者ヲ異ニスルニ至リタルトキ 地租ハ所有者ニ課スルモノナルカ故

ニ所有者ヲ異ニスルニ至リタルトキハ別筆トシテ各其地租ヲ定ムヘキハ當然ナリ

5 質權ノ目的ト爲リタルトキ 所有者ヲ異ニスルニ至リタルトキト同一ノ理由ニ因リ別筆ト爲スモノナリ

右4及ヒ5ニ記ス所ハ理論ニ於テハ所有者ノ意思ニ拘ラス政府ニ於テ之ヲ分割シテ可ナリト雖モ實際ニ於テ土地ヲ讓渡又ハ質入セントスルトキハ之ヲ指定セサルヘカラサルカ故ニ讓渡又ハ質入前ニ於テ所有者ハ必ス之カ分割ヲ爲スナルヘシ故ニ事實ハ其意思ニ拘ラス政府ニ於テ分割スルカ如キ場合ハ起ラサルヘシ

土地分割ノ場合ニ於テ地番ヲ附スルハ分割前ニ於ケル其地ノ地番ニ「二三」四等ノ符號ヲ附シテ各筆ノ地番ト爲スヘキモノナリ例ヘハ百五十番ヲ分割シテ三筆ト爲シタルトキハ百五十番ノ一、百五十番ノ二、百五十番ノ三ト爲スカ如シ若シ既ニ地番ニ符號アル土地ヲ分割シタルトキハ其第一筆ニハ従前ノ地番ヲ附シ他ノ各筆ニハ本番ノ符號ヲ順次増加シタル地番ヲ附スルモノトス例ヘハ前例ニ

於ケル百五十番ノ二ヲ更ニ分割シテ三筆ト爲シタルトキハ其一筆ハ依然トシテ之ヲ百五十番ノ二ト爲シ他ノ二筆ハ之ヲ百五十番ノ四及ヒ百五十番ノ五ト爲スカ如シ

三 土地ノ合併ヲ爲シタル場合

同一所有者ニ屬スル土地ハ成ルヘク合併シテ少數ノ筆ト爲スコト諸般ノ點ニ於テ便宜多シ何トナレハ土地ノ表示ヲ爲スヘキ機會ニ於テ多數筆ニ分ルルトキハ一之ヲ記載セサルヘカラサルモ之ヲ合併シテ少數ト爲ストキハ記載ヲ簡短ト爲スノ便尠カラサルヲ以テナリ故ニ所有者カ土地ノ合併ヲ爲サンコトヲ申告シタルトキハ之ヲ以テ區域トシ更ニ地番ヲ附スヘキモノトス(地租條例施行規則第一五條)但シ市町村大字又ハ小字ヲ異ニスル土地ハ之ヲ合併スル能ハサルモノナリ

土地ノ分割ハ所有者ノ意思ニ拘ラス政府ニ於テ之ヲ爲ス場合アリト雖モ合併ハ所有者ノ意思ニ拘ラス政府ニ於テ之ヲ爲スコトハ法令ノ認メサル所ナリ蓋シ合併ハ分割ノ如ク之ヲ爲スニアラサレハ地租ノ賦課又ハ免除ヲ爲スコト能

ハサルカ如キ事情ナキヲ以テナリ然レトモ合併ハ前ニ記スガ如キ利益アルヲ以テ所有者ニ於テ別筆ト爲シ置クノ必要ナシト爲スモノハ成ルヘク合併スルヲ可トス

土地ヲ合併シタルトキハ合併前ノ地番中首位ニ在ルモノヲ以テ該地ノ地番ト爲スヘキモノトス例ヘハ百番百一番百二番ヲ合併シテ一筆ト爲ストキハ百番ト爲スカ如シ從前ノ取扱ニ於テハ土地合併ノ場合ニ於テハ合併シタル地番ヲ悉ク舉ゲテ何番何番合併ト記載スルノ例ナリシヲ以テ現今尙ホ此ノ如キ地番ヲ有スル土地アルヲ見ルコト尠カラス此ノ如キ地番ハ之ニ依リテ土地ノ沿革ヲ知ルノ便ナキニアラスト雖モ土地ノ符號タル地番トシテハ適當ナリト謂フコトヲ得ス

四 土地改良耕地整理ヲ爲シタル場合

現在ノ土地區分ハ其區劃狹小不整ニシテ之ニ介在スル道路溝渠等ハ迂回屈曲シ且ツ各自ノ所有地ハ交互錯綜又ハ點在シ爲メニ利用ヲ爲スヲ得サル土地ヲ生スルコト多キノミナラス之ヲ利用スルニ付キ時間ト勢力トヲ費スコト比較

的多大ナラサルヲ得ス此狀況ハ耕地ニ於テ最モ甚シト爲ス是ヲ以テ明治二十年法律第三十號ヲ以テ地租條例ニ改正ヲ加ヘ耕地ノ區劃形狀ヲ變更シタルモノニハ地價据置年期ヲ許可スルコトヲ明治三十年法律第三十九號ヲ以テ土地區劃ノ改良ヲ爲シタルモノニハ現在地價ノ總額以上ニ上ルヘキ地價ヲ附セザルコトヲ定メラレ尋テ明治三十二年法律第八十二號ヲ以テ耕地整理法ヲ制定シテ耕地區劃ノ整理ヲ容易ナラシメンコトヲ計リ專ラ土地ノ區劃形狀ノ整理ニ歸センコトヲ力メタリ耕地ノ整理ハ之カ法規ノ不備ナリシ時ニ在リテモ既ニ地方ニ因リテハ之ヲ企畫シ其成蹟亦見ルヘキモノ尠カラサリシヲ以テ法規ノ稍ヤ整備ニ就キタル今後ニ在リテハ各地ニ於テ益其施行ノ多キヲ見ルニ至ルナルヘシ而シテ改良整理ノ目的ハ實ニ現在ノ區分ヲ變更スルニ在ルカ故ニ其結果トシテ改良整理ノ成蹟ニ就キ新ニ相當ノ區分ヲ定メ之ニ地番ヲ附セサルヘカラス此場合ニ於テハ地番ハ左ノ例ニ依リテ之ヲ附スヘキモノトス

(明治三十三年大藏省訓令第二十二號)

一 改良整理ニ因リテ成リタル一筆從前ノ土地二筆以上ヲ包含シ又ハ從前ノ

土地二筆以上ノ各部分ヲ包含スルトキハ從前ノ土地中適宜其一ノ地番ヲ以テ各筆ノ地番ト爲スヘシ例ヘハ五十番五十一番五十二番五十三番五十四番五五筆カ整理ノ結果二筆ト爲リ五十番五十一番ハ其一筆ヲ爲シ五十二番五十三番五十四番ハ他ノ一筆ト爲リタルトキハ前者ハ之ヲ五十番トシ後者ハ之ヲ五十二番トスヘク若シ整理ノ結果五十番ノ一部ト五十一番ノ一部ト合シテ甲筆ト爲リ五十番ノ他ノ一部ト五十一番ノ他ノ一部ト合シテ乙筆ト爲リタルトキハ甲筆ノ地番ハ之ヲ五十番トシ乙筆ノ地番ハ之ヲ五十一番トスヘキカ如シ

2 改良整理ニ因リテ成リタル一筆從前ノ土地一筆ノ一部分ニ該當スルトキハ其地番ハ從前ノ土地ノ地番ヲ用フルカ又ハ其地番ニ一、二、三等ノ符號ヲ附シタルモノヲ用フヘシ例ヘハ三十番、三十一番ノ二筆カ整理ノ結果二筆ト爲リ三十番ト三十一番ノ一部ト合シテ甲筆ヲ爲シ三十一番ノ他ノ一部カ乙筆ヲ爲シタルトキハ甲筆ヲ三十番ト爲シ乙筆ヲ三十一番ト爲スヘク若シ三十番ノ一部カ甲筆ヲ爲シ他ノ一部カ乙筆ヲ爲シ三十一番ノ一部カ丙筆ヲ爲シ他ノ一部カ丁筆ヲ爲シタルトキハ甲筆ハ三十番ノ一乙ハ三十番ノ二丙ハ三十一番ノ一丁ハ三十二

番ノ二ト爲スヘキカ如シ

第二款 課税ノ標準

地租ハ土地ノ價額ヲ標準トシテ之ヲ賦課ス蓋シ物ノ價額ナルモノハ種種ノ原因ニ本キテ定マルモノナリト雖モ其物ヨリ生スル利益ハ之ヲ定ムル主要ナル原因ヲ爲スモノナルカ故ニ土地ノ價額ヲ標準トシテ地租ヲ課スルトキハ自ラ收利ニ比例スル課税ト爲リ土地ノ負擔ニ厚薄ノ弊ナカラシムルニ庶幾キモノナルヲ以テナリ然レトモ現行地租ノ標準タル地價ナルモノハ第一節ニ於テ略述シタル如ク多クハ明治六七年ノ頃ノ時價ヲ以テ定メタルモノニシテ爾後地價ヲ設定シ又ハ之ヲ修正スルニハ常ニ地租改正當時ノ狀態ヲ基礎トシテ之ヲ行ヒタルモノナルヲ以テ今日ニ於テハ賣買價格トノ間ニ大ナル差違アルコトヲ免レス地租條例第一條但書カ「本條例ニ於テ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケタル價額ヲ謂フ」ト規定シタルハ地租賦課ノ標準ハ土地ノ賣買價格ニアラスシテ其法定價格ナルコトヲ明カニシタルモノナリ

地租賦課ノ標準ハ土地臺帳ニ記載セラルル地價ナリトセハ土地臺帳ニ記載セラルル地價ハ正確ナル計算ニ本クモノニシテ且ツ其記載上ニ誤謬ナキコトヲ期セサルヘカラス若シ其間ニ誤謬アリシコトヲ發見シタルトキハ後日ニ於テ土地臺帳ノ記載ヲ訂正スルコトヲ得ルヤ事ニ誤アラハ之ヲ正スヘキハ當然ナルヲ以テ此ノ如キノ設問ハ始ト之ヲ解決スルノ必要ナキカ如シト雖モ實際ニ於テハ此事タル類ル論難辯議ヲ費サレタル問題ニ屬スルカ故ニ予ハ之ニ付一言ヲ試ミントス土地臺帳記載ノ地價ハ誤謬ヲ理由トシテ之ヲ訂正スヘキモノニアラスト爲ス論者ノ議論ハ主トシテ左ノ數點ニ歸著スルモノノ如シ

(イ) 明治十一年六月十三日地租改正事務局總裁及ヒ大藏卿ノ内達ヲ以テ誤失ヲ發見シ地券授與後三十日內ニ申報スルモノハ改租施行初年ヨリ更正スヘキコトヲ定メタルカ故ニ其期間經過後ニ於テハ誤謬ノ訂正ヲ爲ササルコトハ當時ニ於テ既ニ一定セラレタル方針ナリ

(ロ) 地價ノ訂正トハ既記ノ地價ヲ變シテ他ノ地價ト爲スモノナルカ故ニ地價訂正ハ地價修正ナリト謂ハサルヘカラス然ルニ地價ノ修正ヲ爲スヘキ場合ヲ

限定シタル地租條例第七條ハ地價ニ誤謬アリタル場合ヲ包含セサルカ故ニ誤謬ノ理由トシテ地價ヲ變更スルコトヲ得ス

(ハ) 地價ハ其土地ノ實益ニ本キテ之ヲ定ムヘキモノナルカ故ニ稱シテ地價ニ誤謬アリト謂フ場合ニ在リテモ其誤謬ハ唯算出ノ間ニ於テ存シタルノミ行政官カ其算出ニ依リテ得タル地價ヲ土地臺帳ニ記載セタルハ其地價ノ能ク土地ノ實益ニ相當スルモノナルコトヲ認メテ之ヲ登記シタルモノト謂ハサルヘカラス故ニ地價其物カ何等ノ誤謬アルモノニアラスシテ訂正ヲ要スヘキモノニアラス予ハ右ノ論結ヲ以テ正確ナル根據アルモノト信スルコト能ハス論者ハ明治十一年六月十三日ノ内達ヲ以テ地券授與後三十日ヲ經過シタルトキハ誤謬訂正ヲ許ササルノ趣旨アルモノト爲スト雖モ此ノ如キハ甚シキ誤解ナリ該内達ハ誤失ノ更正ヲ爲スヘキコトヲ前提トシテ發セラレタルモノニシテ唯其申出ノ地券授與後三十日內ニ在ルト否トニ因リテ更正シタル地租ヲ適用スヘキ時期ヲ異ニスヘキコトヲ定メタルノミ況ヤ該内達ハ地租改正當時ノ誤謬ニ付テノミ規定スルモノニシテ地租改正後ニ設定又ハ修正シタル地價ノ誤謬ニ付テハ

何等ノ關係スル所ナキニ於テヲヤ次ニ論者ハ地價訂正ヲ以テ地價修正ナリト爲シ地租條例第七條ハ之ヲ許サスト爲スト雖モ是レ亦議論ノ適切ナラサルモノト謂ハサルヲ得ス地價修正トハ適法ニ成立シタル地價ヲ法律ノ規定ニ從ヒテ變更スルコトヲ謂フモノナリ地價訂正トハ適法ノ地價ナキカ故ニ適法ノ地價ヲ記載シテ適法ナラサル地價ヲ削除スルモノナリ二者ノ間殆ト其混同ヲ生スヘキ接近タモアルコトナリ然ルニ此相異ナリタル事實ヲ混同シタル觀念ヲ前提トシテ議論ヲ爲ス其論結ノ當ヲ得サルハ言フヲ須タス誤謬ハ算出ノ間ニミ存シテ地價其物ノ上ニ存セスト謂フニ至リテハ予ハ實ニ論者ノ寛容トルニ驚カサルヲ得ス地價ハ地租條例第九條ニ依リ土地ノ所得ヲ審查シ其狀況ニ應シテ之ヲ定ムヘキモノナルヲ以テ行政官カ土地所得ノ審查ヲ誤ラス且ツ之ニ依リ一定ノ算法ヲ以テ其價格ヲ算出シタル場合ニ於テ此價格ヲ以テ直チニ其土地ノ地價ト爲スヲ不當ナリト爲シ他ノ事情ヲ斟酌シテ之ト異ナリタル地價ヲ土地臺帳ヲ記載セリトセハ後日ニ於テ當初算出シタル地價ヲ以テ之ヲ訂正スルコト能ハサルハ無論ナリ是レ誤謬訂正ヲ許ササルカ故ニ然ルニアラス誤謬

ナキカ故ニ訂正スヘキモノナキヲ以テナリ論者ハ如何ナル場合ニ於テモ此ノ如ク見ルヘキモノナリト謂フト雖モ此ノ如キハ問題ニ對スル解決ニアラス問題ハ實ニ地價ニ誤謬アリテ行政官モ亦其誤謬ナルコトヲ知ル場合ニ於テ之ヲ訂正スヘキヤ否ヤト謂フニ在リ例ヘハ土地ノ丈量ヲ爲スニ當リ之ハ長短ノ間數ニ於テハ誤ル所ナキモ之カ面積ヲ算出スルニ當リ其算法ヲ誤リタルニ此誤リタル面積ヲ基礎トシテ地價ヲ定メタルカ如キ又ハ面積ノ算出ハ誤ルコトナキモ實地畑ナルニ拘ラス誤テ田ナリト信シ近傍田地ニ比準シテ其地價ヲ定メタルカ如キ場合ニ於テ其實實ニ於テ相違ナキコトヲ認メラルトキハ既ニ土地臺帳ニ記載セラレタル地價ヲ訂正スルコトヲ得ルヤ否ヤト謂フニ在リ行政官カ實地ノ情況算定ニ依リテ地價ヲ定ムルコトヲ適當ナリト爲シ而シテ其算定ニ誤リアリシトセハ土地臺帳ニ記載シタル地價ハ其適當トシテ定メント欲シタル地價ニアラスシテ土地ノ實益ニ恰當セサルモノナルコトハ明カナリ之ヲ如何ソ土地臺帳記載ノ地價ハ土地ノ實益ニ恰當スルモノナルコトヲ認メテ登記セラレタルモノニシテ誤謬ナシト謂フコトヲ得ヘケンヤ論者或ハ曰ハ

ン土地臺帳ノ記載ヲ爲ス時ニ於テ行政官カ其地價ノ實地ニ適當スルコトヲ認メタルヤ否ヤハ人ノ心裡ノ作用ニ屬スルカ故ニ後日ニ至リ之ヲ確知スルコト能ハス然ルニ事ニ誤謬アルコトヲ推定スルハ推理ノ當ヲ得タルモノニアラス故ニ寧ロ初ヨリ如何ナル場合ニ於テモ誤謬ナカリシモノト爲スヲ以テ至當ト爲スト此ノ如キハ實地ノ議論ニアラスシテ證據ノ議論ナリ誤謬ニシテ證明セラレシハ訂正ナルコトノ起ラサルハ無論ナリ然レトモ既ニ誤謬ノ存スルコトヲ證明セラレタルトキハ論者ノ斷定ノ如キヲ許ササルモノナリ予ハ論者カ證明ノ難易ヲ以テ實體ノ機能ヲ左右セントシタルヲ惜シム者ノナリ予ヲ以テ之ヲ見ルニ算出ヲ誤リ又ハ比準ヲ誤リタルカ如キハ書類ニ徴シテ以テ之ヲ證スルコトヲ得ヘシ而シテ既ニ誤謬ニ因リテ地價ヲ定メタルコト明カナルトキハ誤謬ヲ訂正スルコトハ當然ノ事ニシテ特ニ法令ノ規定ヲ須タサルモノナルカ故ニ行政官ハ速ニ之カ訂正ヲ爲ササルヘカラス唯茲ニ注意セサルヘカラスルハ從前ノ取扱ニ於テ屬目難シタル所謂丈量誤謬ナルモノハ多クハ予ノ謂フ所ノ誤謬ニアラサルコト是ナリ土地ノ丈量ヲ爲ス機會ニ於テ其得タル面積

カ前丈量ニ於テ定メラレタル面積ト異ナルトキハ動モスレハ丈量誤謬トシテ其土地ノ地價ヲ訂正シタルコト從來屢行ハレタル所ナリト雖モ現今行政上ニ於テ用ヒラルルカ如キ方法ヲ以テ土地ノ丈量ヲ爲ストキハ同一人カ同一ノ土地ノ丈量ヲ爲スモ毎回多少ノ差違ヲ見ルヘキコト其常ニシテ若シ之ヲ以テ前丈量ニ誤謬アルモノトセハ現行ノ地價ハ悉ク誤謬ニ因リテ成ルモノトシテ訂正ヲ爲ササルヘカラス然レトモ行政事務ナルモノハ決シテ此ノ如キ極端ナル施行ヲ許スモノニアラス故ニ前後ノ丈量ニ於テ反別ニ少許ノ差違アル場合ノ如キハ決シテ前丈量ニ誤謬アリトシテ地價ノ訂正ヲ爲スヘキモノニアラサルナリ

地價ノ訂正ヲ爲シタル場合ニ於テハ正當ナル地價ニ依リテ地租ヲ定メ時効ニ罹ラサル限りハ誤謬ヲ生シタル年ニ遡リテ既徴ノ地租ニ對スル差額ノ追徴又ハ還付ヲ爲ササルヘカラス此事タル當然ノコトニシテ殆ト説明ヲ爲スハ必要ナキモノナリト信ス

第一 地價ノ設定

現今有租地ハ皆地價ヲ有シ而シテ其地價ハ明治六七年頃ノ狀態ヲ基礎トシテ定メラレタルモノナルコトハ既ニ述フル所ノ如シ然レトモ土地ノ所有者又ハ其供用ノ變更ナルコトハ絶エス存スル事實ナルカ故ニ有租地ニシテ免租地ト爲ルモノ頗ル多キカ如ク無租地ニシテ有租地ト爲ルモノ亦少カラス而シテ此ノ如キ場合ニ於テハ地租ヲ賦課スル爲メ其標準タル地價ヲ定メサルヘカラサルヲ以テ地價ノ設定ナルコトハ地租事務所管職ニ於ケル常務ノ一ヲ爲スモノナリ

一 地價ヲ設定スヘキ場合

地價ヲ設定スヘキ場合ハ一言ニシテ云ヘハ從來地租ヲ賦課セザリシ土地ニ新ニ之ヲ賦課セサルヘカラサルニ至リタルトキニ在リト謂フコトヲ得ヘシ然レトモ讀者ノ了解ニ便ニスル爲メ予ハ其場合ヲ細別シテ之ヲ舉示セント欲スト
(イ) 官有地ヲ民有ノ有租地ト爲シタルトキ 官有地ノ拂下又ハ下渡ヲ得テ之ヲ有租地ニ供用スルトキハ其地價ヲ設定スヘキモノトス但シ地租條例第十六條第五項ニ依リ新開免租年期ノ許可ヲ受ケタルモノハ此限ニ在ラス

(ロ) 免租地ヲ有租地ト爲シタルトキ地租條例第一一條 茲ニ免租地ト稱スルハ予ノ所謂無期免租地ニシテ地租條例第四條ニ規定スル土地ノミナラス特別法ヲ以テ無期ニ地租ヲ免スルコトヲ定メタルモノハ皆之ヲ包含ス地租條例第十一條ノ免租地ナルモノハ其第四條ニ規定スルモノノミヲ指スモノナルヘシト雖モ免租地ノ有租地ト爲リタルトキ其地價ヲ定ムヘキコトハ一般ニ及フヘキモノニシテ特ニ第四條ニ規定スル土地ニ限ルヘキモノニアラサルナリ

(ハ) 新開免租年期明ト爲リタルトキ地租條例第一九條 官有水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ニシテ新開免租年期ノ許可ヲ受クタルモノハ民有ニ歸シタル際ニ於テハ地價ヲ設定セサルヲ以テ其年期明ト爲リ地租ヲ賦課スヘキニ至リタル時ニ於テ之ヲ設定セサルヘカラス

(ニ) 地租改正前ニ於テ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ年期明ト爲リタルトキ 地租改正ノ時ニ於テ現ニ荒地免租年期中ニ係ル土地ハ地租改正ノ時其地價ヲ定メナリシヲ以テ年期明ノトキニ於テ之ヲ設定スルコトヲ要ス其反別ハ甚タ多カラスト雖モ現今尙ホ各地ニ於テ此ノ如キ土地アルコトヲ見

三十三年度 校外生規則摘要

- 一 講義録ハ、毎月各部二回發行シ、滿一个年ヲ以テ卒業トス
- 一 一个年ヲ以テ完了セサルトキハ、號外ヲ發ス
- 一 講義録ハ之ヲ三部ニ分ツ其發行定日左ノ如シ
 - 第一部 毎月 五日 二十日
 - 第二部 毎月 十日 廿五日
 - 第三部 毎月 十五日 三十日
- 一 月謝金ハ全部壹圓、各一部四十錢トス但シ入學金ヲ要セス
- 一 校外生ハ本校講談會、討論會ニ出席傍聴スルコト及ヒ本校ノ出版ニ係ル書籍雜誌ハ特別ノ廉價ヲ以テ購求スルコトヲ得
- 一 校外生全部卒業證書ヲ有スル者ハ試験ノ上校内生三年級ニ編入セラルコトヲ得
- 一 校外生ハ講義録中ノ疑義ニ付キ質問スルコトヲ得問題ハ一問毎ニ別紙ニ認メ且一問毎ニ返信用郵券ヲ封入スルコトヲ要ス
- 一 三個月以上月謝不納ノ者ハ退學者ト看做ス
- 一 月謝ハ東京飯田町郵便支局拂和佛法律學校會計係宛トスヘシ

明治廿二年十二月九日 内務省許可

明治三十三年七月廿一日印刷

明治三十三年七月廿五日發行

東京市四谷區四谷中町三丁目六番地

編輯者 小田 幹 治 郎

東京市芝區四ノ久保町南町十一番地

印刷者 金子 鐵 五 郎

東京市芝區四ノ久保町南町十一番地

印刷所 金子 活 版 所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 和佛法律學校

（電話番町百七十四番）